

平成22年度事業

「地域力アップフォーラム（パート3：人材活用編）」

てだこ市民大学 第1期卒業生研究発表会

プログラム

1. 開会行事

- (1) 主催者あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) 発表会の進め方

2. 発表&質疑等

(1) 発表&質疑

- ①コミュニティビジネス・地域振興学部
- ②健康福祉・スポーツ振興学部
- ③文化振興・教養学部
- ④地域・学校支援コーディネーター養成学部

(2) 卒業研究テーマ一覧紹介

3. 閉会のあいさつ



日 時：平成23年3月17日（木）19：00～

場 所：浦添市役所9階講堂

主 催：浦添まちづくり元気ネットワーク

共 催：浦添市・浦添市教育委員会

てだこ 新川

「てだこ市民大学第1期卒業生研究発表会」開催要項

— 卒業後の地域キーパーソンの心意気とその活躍の場づくりを / —

1. 趣 旨 本市は、生涯学習社会の実現を目指すため、まちづくり生涯学習基本理念の下、「市民主体のまちづくり」、「夢・まち・人づくり」等、その役割を担う地域のキーパーソンとしての人材育成を図る画期的な「てだこ市民大学」を平成21年5月開講させた。平成23年3月20日第1期卒業生を送りだす節目を迎えた。卒業後、各分野での活躍と地道に活動・尽力するキーマンに市民の期待は大きなものがある。

そこで浦添まちづくり元気ネットワークでは、「地域力アップフォーラム（パート3：人材活用編）」・表題のことについて開催する。

卒業生たちが2ヵ年掛けて学んだ「知識・技能」や使命感・心意気等、卒業研究の成果・まとめを広く市民・各種団体等に公開すると共に、市民・各種団体及び行政関係者が地域キーマンとしての人材が活躍・活動できる場づくり・機会づくり等、その支援体制や受入れ環境づくりの条件整備に資する。

2. 日 時 平成23年3月17日（木） 19:00～21:00

3. 場 所 浦添市役所 講堂（9階）

4. 対 象 市民・各種団体及び行政関係者

5. 日 程（プログラム）

司会進行：森田 弘美

開会行事

- | | | |
|-------------|---------------------|-------|
| (1) 主催者あいさつ | 浦添まちづくり元気ネットワーク会長 | 大瀨 勝彦 |
| (2) 市長あいさつ | 浦添市長（てだこ市民大学学長） | 儀間 光男 |
| (3) 発表会の進め方 | 浦添まちづくり元気ネットワーク事務局長 | 真喜志一輝 |

発表&質疑等

(1) 発表&質疑

①コミュニティビジネス・地域振興学部 ②健康福祉・スポーツ振興学部

③文化振興・教養学部

④地域・学校支援コーディネーター養成学部

(2) 卒業研究テーマ一覧紹介

閉会のあいさつ

浦添まちづくり元気ネットワーク副会長

渡久山ヤス子

6. 主 催 浦添まちづくり元気ネットワーク

7. 共 催 浦添市 浦添市教育委員会

8. 後 援 浦添市自治会長会 浦添市自治公民館長連絡協議会 浦添市女性団体連絡協議会

浦添市婦人連合会 浦添市老人クラブ連合会 浦添市青年連合会

社団法人浦添青年会議所 浦添市PTA連合会 浦添市子ども会育成連絡協議会

浦添市学童クラブ連絡協議会 浦添市子ども文化連盟太陽樹 浦添市文化協会

浦添市青少年健全育成市民会議 浦添市社会福祉協議会 浦添市てだこ学園大学院

環境学習くるりの会 NPOうらそい歴史ガイド友の会 NPOまちづくりてだこ市民会議

NPOライフサポートてだこ ビジネスモールうらそえ 浦添市ボランティア連絡協議会

浦添市民生委員児童委員連絡協議会 浦添市体育協会 浦添市体育指導委員連絡協議会

NPO浦添市美術館友の会 浦添商工会議所 浦添市観光協会

浦添ライオンズクラブ 浦添てだこライオンズクラブ 浦添ウエストライオンズクラブ

J Aおきなわ浦添支店 浦添市立小中学校長会 ※後援依頼予定団体

問合せ&連絡先

☆ 浦添市教育委員会 生涯学習振興課内「てだこ市民大学」事務局

電話 876-1234 内線 6064 fax: 879-7280

☆ 浦添まちづくり元気ネットワーク事務局 会長：大瀨勝彦宅

TEL&fax: 879-2276 携帯TEL: 090-1940-3212

Email: katsuok2276@yahoo.co.jp

卒 業 研 究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興学部

氏 名：金城 久子

テーマ：てだこウォークを楽しくするプロジェクト

項 立： 1. テーマ設定の理由

2. 内容

(1) てだこウォークの趣旨と現状

(2) プロジェクトの目的

(3) プロジェクトの内容・準備

(4) てだこウォーク当日の様子

①あじさい公園での取組み

②浦添ニュータウン自治会の取組み

(5) てだこウォークでまちおこし

3. まとめ

4. 謝辞

5. 資料提供

1. テーマ設定の理由

コミュニティビジネス・地域振興学部の専門科目「個別課題演習」の中で、私たちが企画・実施した「てだこウォークを楽しめるプロジェクト」を通して、まちおこしをすることで地域活性化をはかれるのではないかと思います、テーマとして設定しました。

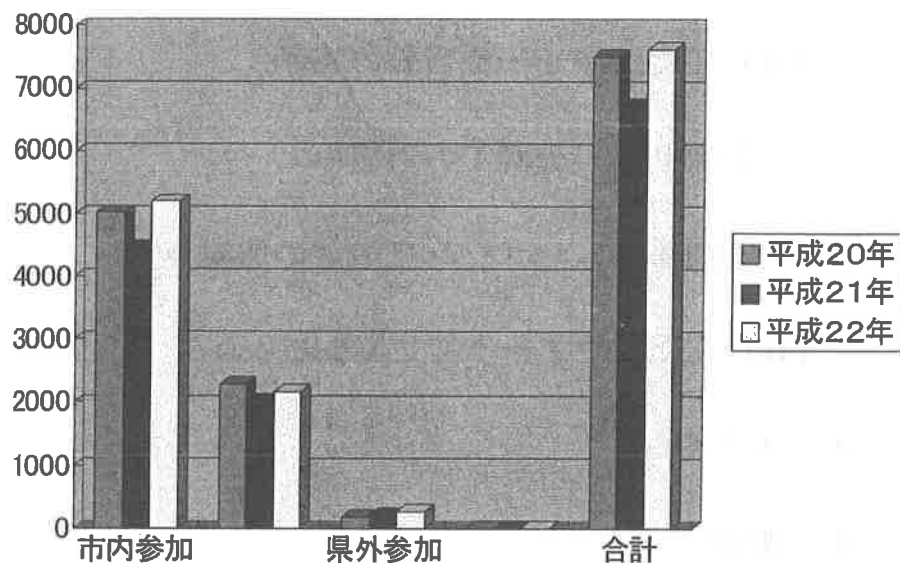
2. 内容

(1) てだこウォークの趣旨と現状

てだこウォーク2011が去った2月5日・6日に開催されました。てだこウォークの趣旨『いきいき生涯健康づくり』を推進するとともに、浦添市の歴史・文化・地域特性を活かした交流の輪を広げる大会です。春のイベントとして定着しており県内からの参加者だけでなく県外・国外からの参加者も多く、マラソンでは無い為老若男女の方々が無理なくウォーキングを楽しむことができます。

1日目はうらそえ浪漫ルートとめいうって「5km」「10km」「20km」「30km」のコースがあり、2日目は世界遺産と中頭街道オーシャンビュールートとめいうって「5km」「10km」「20km」「42.195km」のコースを設け、2日間で全8コースがあります。そして、5時までにゴールすることとなっています。

〔てだこウォーク2009～2011年 参加者集計表：市社会体育課〕



(2) プロジェクトの目的

そこで今年卒業予定のコミュニティビジネス・地域振興学部2年生7名と、大平自治会の方3名が参加しました。卒業までに何か一つ皆で課題を企画し

実習出来ないかとの話がもち上がり昨年の11月に企画しましたが、皆で集まって話し合いもなかなか出来ませんでした。仮名で『てだこウォークを楽しむプロジェクト』と掲げ意見を出し合いました。

コンセプトは「参加者を増やすにはどうすればよいか、特に県外の参加者へのアピールの方法は?」「参加者がどのようなことをしてほしいか」「どうすれば喜んでいただけるか。参加してよかった、今度は友達とまたは家族で参加したいと思っていただけるか」などいろいろな意見を出し合いました。

私はコミュニティビジネスとして参加をするので、ボランティアではないということにこだわりました。そしてこのプロジェクトを成功させたいと思いました。

(3) プロジェクトの内容・準備

まず開催場所は大平のあじさい公園に決定しました。しかし、あじさい公園にはお手洗がありません。お手洗いにこだわり事務局に簡易トイレの設置をお願いしましたが、今回は認められませんでした。あじさい公園には桜の木が10本余りあり、閑静な住宅街のなかにあるすばらしい公園です。あじさい公園のコースは一日目の10km・20km、参加者が10kmコース1094名、20kmコース784名、合計1878名が参加しました。

次におもてなしとして取り組んだことは、まず最初に、今年売り出そうとしている浦添の産業のひとつに桑茶があるそうで、現在はまだ商品化されていないので、試飲をしてもらい紹介しようと予定していました。しかし、現在桑が不作とのことで断念しました。次に、浦添の歴史・環境について紹介しようということで、浦添城址や史跡のポスターを貼り、浦添市内の地域・歴史散策活動や環境マップを紹介しました。また、例年参加者に好評だという「サトウキビ」を、私たちは搾ってジュースにしようかと思いましたが、サトウキビの本数が確保できず、短く切って配ることにしました。飲食はレモングラス・紅茶・ジャスミン茶・黒砂糖・タンカン・枝豆を用意しました。仕事は担当をきめ動くことにしました。

(4) てだこウォーク当日の様子

①あじさい公園での取組み

大会当日は前夜の雨も上がり、あちらこちらに水溜りはあったものの晴天に恵まれ、桜は満開ではありませんでしたがすばらしい大会日和でした。

私たちは、ウォーカーがあじさい公園を通過するといわれていた10:30を目標に、上で述べた飲み物(温かいお茶・レモングラス、冷たいドリンク等)の提供や、サトウキビ(ウォーカーの目の前でサトウキビをカットし手渡し)や枝豆・タンカン等の提供、歴史散策・環境マップ等の掲示物の紹介を行いました。

参加者に対しては積極的に声をかけるようにしました。駆け去っていく小学生、マイカップを持って湯茶をもらう人、ゆっくりお茶を飲み一休み

している人、桜を見る家族ずれ、歴史散策・史跡のパネルを見ながら質問している人、さとうきびをなつかしみながら食べている人、めずらしがっている人、足に障害を持ちながらもがんばって歩いている人、県外の方で「もう3回目よ」と話しかけてくる人など、いろいろな方々が通り過ぎて行きました。ここを通過された方々は満足されたでしょうか、又来年も参加しようと思ってくだらうかなど、積極的にランナーに声をかける事は大変良いことだと思いました。ウォーカーもリラックスするだろうし、コース途中のことを話してもらうことにより、良いこと、悪いこと次年度の参考にもなるのではないかと思います。



公園入口に看板を設置



サトウキビをウォーカーの前でカット



多くのウォーカーが足を止めて・・・



レモンガラスのお茶やドリンクを提供



掲示物への説明は県外参加者にも好評



ウォーカーとの会話も弾む

②浦添ニュータウン自治会の取組み

この沿道でのボランティアは事務局と地域の打ち合わせをしてやるものではなく、自治会・ボランティアが独自で企画運営をしているので、沿道でのサービスは差があります。今回、私の住んでいる浦添ニュータウン自治会は有志で上り口説を三味線・太鼓演奏で参加しました。今までスタート場所からも近いという理由で参加していませんでした、このように、だれかがやろうと声をかければ人は集まると思います。もし私がウォーカーだった場合、沿道で、このようなもてなしをうけたなら、うれしく思い、足も軽く、ゴールまで、励みになると思います。

③本部での取組み

本部のある体育館・運動公園周辺は、大会中すばらしいイベントが盛りだくさん開催されています。それを見るとあまりにも沿道との差がありすぎると思います。せめて出演された方達が沿道も盛り上げてくれるといいですね。



疲れたウォーカーにマッサージ



獅子舞やエイサーで「いってらっしゃい」



元オリンピック選手・朝原さん



協賛企業のブースが並びます

(5) てだこウォークでまちおこし

事務局に過去5年間の参加人数・男女別・年齢別・団体のボランティア件数・歳入・歳出等を教えてもらったりしました。今年の参加者は7624名で、そのうち県外参加者は269名の市内参加は5194名・市外参加者は2161名です。また、県外の参加者で61歳～70歳の方が全体の50%前後いらっしゃいます。それに比べ20歳～40歳までの方が1ケタで1%しかいらっしゃいません、それに県外参加者は全体の3%です。

県外の参加者には、てだこウォークの募集と同時に、本土に比べ暖かい沖縄、2月には桜まつりも開催されます。プロ野球もキャンプで11球団が来ます。その時期沖縄県をアピールするものは、いっぱいあるはずです。それをツーリストやネットによって、紹介するのです。

県内の参加者には、浦添市の歴史・産業を紹介します。

コースの沿道には花々を植えウォーカーをなごませ、浦添市には2月1日にはヤクルトスワローズもキャンプに来ます。そして選手方にも、練習に支障のないかぎりに参加してもらいます、大会のコースにも入っているキャンプキンザーは、普段は入る事の出来ないところです。そのような所を目玉に使います。沖縄にいながら、ここはアメリカなのだと紹介し、アメリカ人による歓迎をしてもらいます。そして普天間飛行場、嘉数高台からは普天間飛行場を見ることが出来ます。めったに見ることの出来ない、軍用機を見ながら説明してもらえたら良いと思います。それから、歴史浪漫として浦添城址・ようどれでは琉球国王・王女の衣装で出迎えと案内があり、その他の史跡では説明してくれるガイドに待機してもらいます。文化の面では、伝統芸能がある自治会には沿道で演舞をしてもらいます。(前田捧・獅子舞・エイサー) 添乗員と一緒に廻る浦添ウォーキングとか、団体・部活・子ども会などはグループで参加してもらい、生涯学習の一環にするのもいいと思います。

大会を共催・後援・特別協賛されている会社にはご自分の会社の前で、会社をPRする。

3. まとめ

てだこウォークを成功させるには、行政・NPO・団体・自治会・個人等が連携して盛り上げれば、市民もやる気を起こすはずです。今回は私どもコミュニティビジネス・地域振興学部2年生が企画・運営しました。はじめてのことで、期間も短く心残りもあります、今後コミュニティビジネスの課題授業として取り上げることが出来たらすばらしい事業になるとおもいます。時間をかけアイデアをだし、私たち卒業生にも声をかけもらえば、嬉しく思います、1年1年積み重ね、人が集まれば、輪が広がります。継続は力なりです。頑張りましょう。

4. 謝 辞

山城学長・親泊先生2年間ありがとうございました。振り返れば、平成21年5月から7月までは、うらそえ学の講座として儀間学長（市長）始め市役所各部の部・課長様が専門分野での講習、それから、学校の先生、会社社長、税理士事務所の所長、素晴らしい方々の講習・講義がありました、この場を借りてお礼を申し上げます、有り難うございました。

5. 資料提供

浦添市教育委員会・社会体育課
てだこ市民大学事務局

卒業研究

テーマ

浦添の歴史と地域芸能体感プログラム

(市の観光資源と地域芸能を活用し、活気ある浦添市にしよう!!)

平成23年2月28日

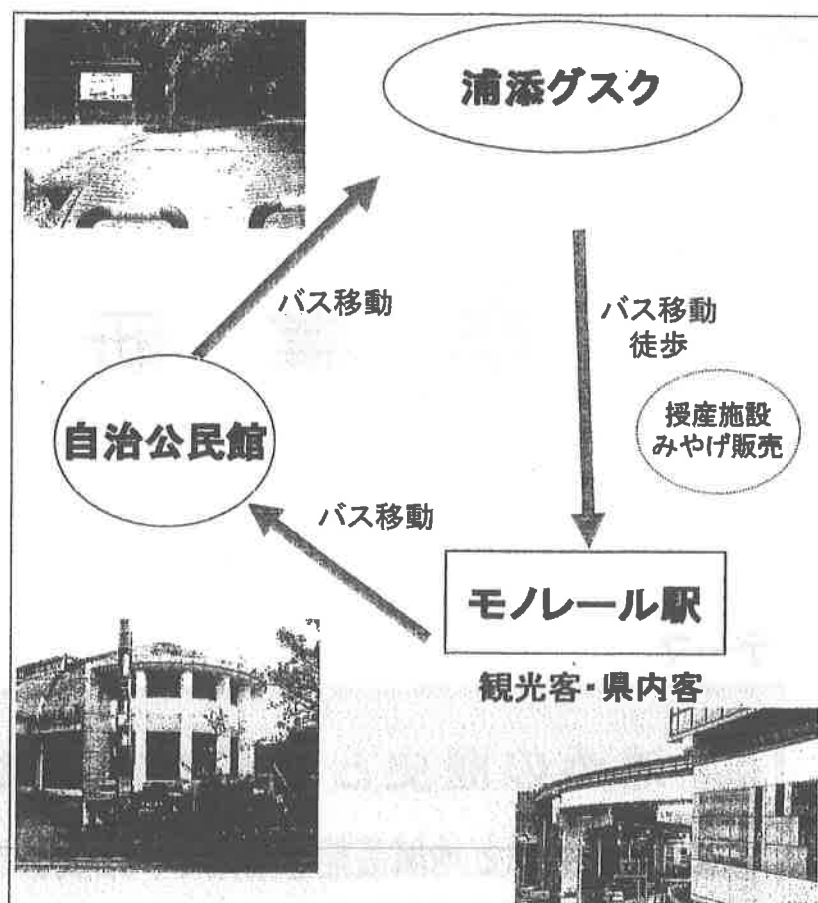
学部名 コミュニティビジネス地域振興学部一期生

氏名 金城 幸弘

浦添市 てだこ市民大学

概 要

観光客や県内客をターゲットに各自治公民館で芸能を披露し浦添グスクの歴史散策のプログラムを提供して、将来は浦添市全域の芸能文化観光地化をめざす。



目 次

第1章	はじめに	
1・1	研究の背景	1項
1・2	研究の目的	1項
1・3	本研究の構成	1項
第2章	本 論	
2・1	問題提起	2項
2・2	研究の説明	2項～5項
第3章	考 察	5項
第4章	ま と め	6項
付 録	参考資料	7項～

第1章 はじめに

1.1 背景

浦添市がモノレールを乗り入れる事になり、交通アクセスが格段と良くなる状況において、観光施設がない本市に観光客を呼び込む **観光資源** は・・・？ として研究した。

価値観が多様化すると共に、人々のふれあいも希薄化し、心の栄養素が不足がちな現代人を惹きつけるには、温故知新と人間ドラマを体感する事にあると確信した。思いついたのが市の歴史文化と自治公民館の融合である。

方策として浦添グスクと首里城をリンクさせた、琉球王統発祥伝説を物語として売り込み、王統下で根付いた地域文化や伝統芸能を日々の生活に密着した場所で体感できるプログラムを提供する

人は歴史の謎・ロマンに魅せられ、地域文化の人間ドラマに出会い、生きる活力を得て良い旅の想いでづくりになると思慮した。

1.2 目的

本市の地場産業が少ない状況において、既存の観光資源の他に地域に散在している自然文化、芸能を活用して、新しい形の観光産業を構築し地域の活性化および雇用の場を創造する事を目的とする。

1.3 本論の構成

1. 顧客ターゲット
2. 集客場所
3. 観光資源
4. 移動方法
5. 参画団体
6. 運営母体
7. 料金設定
8. プログラム設定
9. 実施自治公民館の体制

第2章 本 論

2・1 問題提起

沖縄への観光入域客が年間585万人を超すなかで浦添市は、観光客が留まらない通過点に甘んじている。その現状を鑑みイベント開催のほかにも、常時集客ができる方策を整える事。それに乗じて自治会の活性化及び活動の自主財源を図るしきみを抱き合わせる。そして個性ある自治会・魅力ある自治会を発信し、地域活力の源となるコミュニティ活動の効用を皆で享受する。

これらの方策により、大幅な観光客の入域を図り、自治会加入率アップに繋げて、人に優しいまち、活力あるまちを掲げ 浦添市全域の芸能文化観光地化 をめざす事を提起する。

2・2 研究の説明（実施内容）

1 顧客ターゲット

県外観光客として…… リピーター、各種団体、学生

県内観光客として…… 自治会関係者、各種団体、一般、学生

※ 浦添グスク・ようどれ館の来館者アンケート集計によると

県外観光客 32% 市内以外の県内客 36% 市内客 30%となっており、県外観光客は2～3名でレンタカー利用による来館と考えられる。

市内以外の県内客はマイクロバスによる団体客(自治会等)と考えられる。
(浦添市文化課提供資料・ようどれ館窓口聞き取りにより推察できる。)

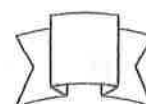
※ 沖縄県の観光入域客の動向及び浦添市の観光資料は別項に転載。

2 集客場所

モノレール駅(前田駅) ————開業まで10年以上かかる。

※ 開業まではおもろ町駅・首里駅にて集客する。

(将来は那覇空港での集客も視野にいれる事になる。)



3 観光資源

- ・浦添グスク — うらおそい歴史ガイド友の会へ委託
- ・自治公民館 — 各自治会での余興の披露(5～6名程度)
(人間ドラマ) (琉舞、三味線、棒術、獅子舞、その他)
展示即売、湯茶接待、その他

4 移動方法

- ・マイクロバス(20～30名乗) — 市内バス事業者へ委託
※ 運営母体がマイクロバスを所有しての運営もある。

5 参画団体

- ・運営母体・自治公民館・うらおそい歴史ガイド友の会・
授産施設・文化課・中央公民館・市観光協会・OCVB・他

6 運営母体・・・予約受付、連絡調整、企画、会議招集 会社組織かNPO法人をたちあげる。

7 料金設定

(事業としての各団体採算ライン想定金額)

集客人数は最低15名として所要時間は3時間として設定。

(マイクロバスは定員20～30名乗を使用)

実施団体	各団体の配分金	顧客1人当たりの支出
自治公民館	¥ 9000 固定	600円
歴史ガイド友の会	¥ 3000 固定	200円
運営母体	¥ 19500	1300円

1人2100円で募集し15人以上の料金設定をした。1ラウンド
20名～25名を目標として利益をあげる。

県内観光客(自治会、団体)が独自のバスで移動する場合は
移動費用を省いて対応する。

8 プログラム設定

(浦添市歴史文化・芸能プチ体感 ツアー)



午 前 の 部		午 後 の 部	
9:30	モノレール駅 集客・出発 (おもろまち駅・首里駅)	13:40	モノレール駅 集客・出発 (おもろまち駅・首里駅)
9:50	自治公民館 到着	14:00	自治公民館 到着
10:00	余興観賞 30分程度	14:10	余興観賞 30分程度
10:50	自治公民館 出発	15:00	自治公民館 出発
11:00	浦添グスク着 60分程度	15:10	浦添グスク着 60分程度
12:00	浦添グスク案内 終了	16:10	浦添グスク案内 終了
12:20	モノレール駅 到着・解散 (おもろまち駅・首里駅)	16:30	モノレール駅 到着・解散 (おもろまち駅・首里駅)
所要時間—3時間		所要時間—3時間	

モノレール駅の年間乗降客—首里駅90万、古島駅68万、おもろ町駅115万人

9 実施自治公民館の体制

方 法

自治会で敬老会や生年祝い等で行われている、各団体、サークル等の余興を披露する。 留まる時間が1時間弱なので、余興は5～6人体制で可能と考えられる。この機会に独自の展示会・即売会を兼ねて湯茶接待する。各団体……等の集会も抱きあわせて自然交流の場をつくるのも良い。

各地域で営まれている日々の人間ドラマを体感してもらう事である。舞台や会場の確保が難しい自治公民館でも他の施設を借りたり、応援…等の協働参画もある。

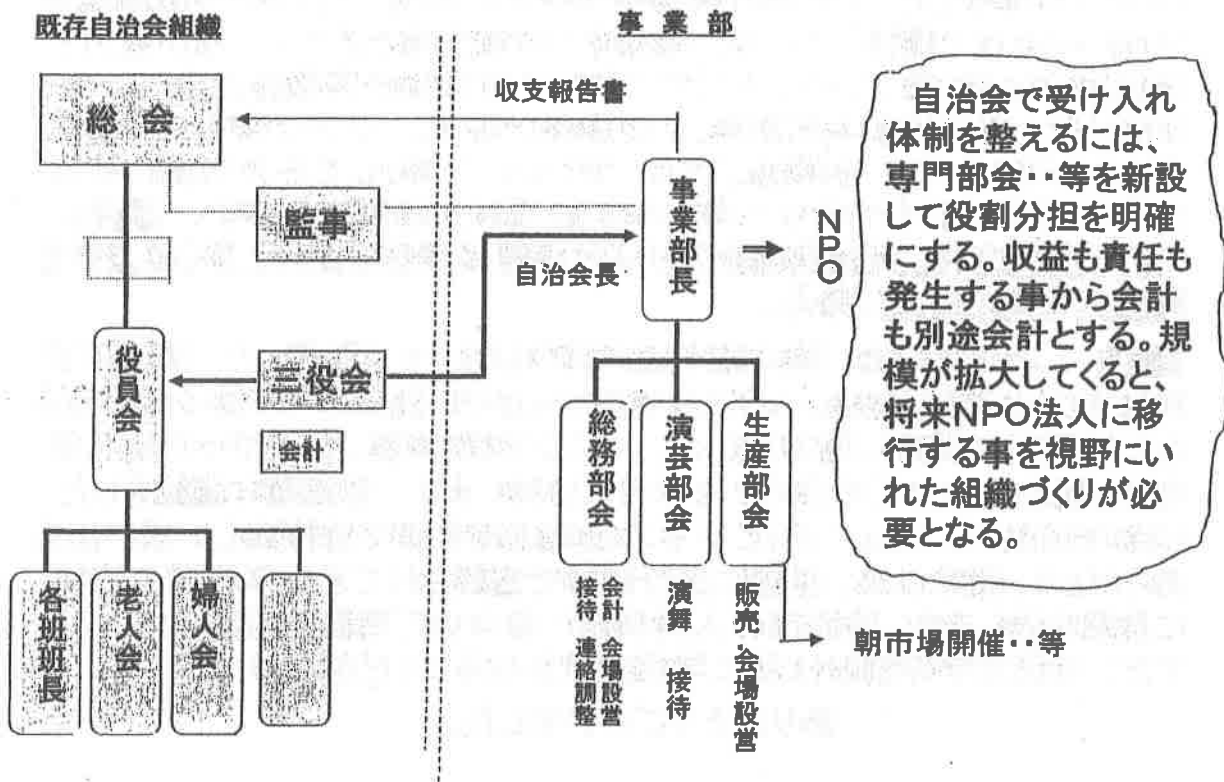
効 果

観光客を自治公民館に受け入れる事によって適度の緊張感が生まれて自治会活動においても、参加意欲を高める波及効果がでてくるものと期待できる。

演芸…等の出番の機会を多くする事で、演ずる本人もスキルアップを図り張り合いもでてくるものと考えられる。力づよい協力者となる事必至である。

各自治会が収益のてだてをもち、演芸や応援等の情報交換により交流が深まってくると、おのずと各自治会のネットワークができて 防災、環境、福祉…分野に協働の力を発揮するものと考えられる。

組織図の整備



第3章 考察

今回の研究で学んだ事は、沖縄県経済に占める観光産業の重要性が少なからず感じた事と、浦添市が通過点である事に甘んじて誘客のてだてを打ち出せないでいる状況である事である。関心が少ない為か、1日に15000人の観光客が県内を巡っているという実感がない。ここらへんで本格的に官民一体となって観光収入を得るてだてを構築する必要があると考える。

今回の方策は、歴史文化の重要性及び魅力をアピールする一歩であり、事業化し、軌道に乗ってくると市内の文化遺産、芸能を活用したプログラムを数多く提供できる。市内への入域観光客増により市の経済に貢献すると共に地域経済にも飛躍的に良い影響を与えると考える。

このプロジェクトを実施するにあたって問題点を考えてみた。

自治公民館での演芸披露・人間ドラマの体感に好感を与える事ができるか？
多様な個性ある顧客に素人の自治会関係者が接待、対応できるか。軋轢は？
収益をあげるが為に責任が重圧となり負担感が増えてこないか？。(自治会)
案内役は迎えから見送りまで必要か？費用削減の為なくても実施できないか？

自治会も活性化に繋がる自主財源の創造を模索する事が必要と考えるか？
あるいは各種補助金や支援金を得る方策で無難な運営をえらぶか？である。

第4章 ま と め

浦添市の入域観光客の動向を、浦添グスク・ようどれ館来館者 アンケートにより推察した。1ヶ月の来館平均数が430名、1日あたりの来館が10名～30名で推移している。浦添唯一の観光地と思っているが魅力と知名度のなさに気づいた。人づてに聞いての来館が多数を占めているのはなぜ？。様々な媒体を活用しての誘客が必要。グスク祭り・・・等のネーミングでイベントを開催してはどうだろう。1例として三大王統行列等をグスクを起点に行うのも一考と考える。現状を悲観する事なく 温存していた歴史文化、伝統芸能を売り込む時勢の到来と捉え、多くの方策を実施する事が必要である。

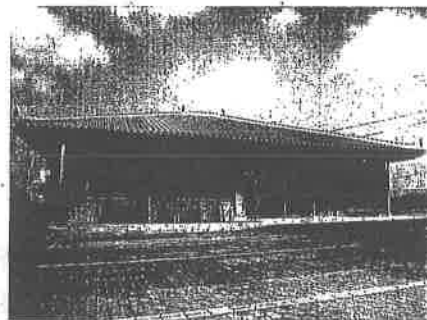
謝辞 本研究の為、県の観光動向資料はネットで取得した。浦添の資料は市文化課より提供。ようどれ館のうらおそい歴史ガイド友の会の皆さんには親切に調査に協力頂いた。ここ2年間指導してくださった山城学部長、親泊先生はじめ多くの先生方に感謝します。有意義な議論をしたり協力を頂いたコミュニティビジネス地域振興学部の皆様楽しい思い出がありとう。開学以来、運営に試行錯誤で奮闘されてきた事務局の皆様 に敬意を表します。浦添市の人材輩出に益々のご奮闘を望みます。てだこ市民大学の創設は私に学習意欲を与えてくださいました。

ありがとうございました。

浦添ようどれと浦添グスクの年表

王 統	で き こ と
神代王統	
英祖王統	この頃浦添グスク築城 咸亨年間(1265～1274) 羅素山(ようどれ)・羅素寺造営
察度王統	この頃浦添グスクの規模が拡大 14世紀前半～ 15世紀前半 ようどれの石垣造営(発掘調査) 1406 浦添グスク滅ぶ
第一尚氏	この頃浦添グスク荒れ果てる 1524 尚維衡、浦添グスクに居住 1589 浦添出身の尚寧、國王となる 1609 薩摩侵入で浦添グスク落城 1620 尚寧王、ようどれを修造して一族の墓を移す
第二尚氏	1759 尚寧王妃の遺骨を天山陵から移葬 1768 ようどれ・玉陵ではじめて清明祭をおこなう 1768 大地震でようどれの石垣所々崩壊 浦添グスクに番所があったと伝わる 1852 「右衛門」(西室)の「殉死ノ者共」の骨を厨子に納める 1945 沖縄戦でようどれ壊滅 1955 琉球政府がようどれの墓室を修復 1997 ようどれの復元事業はじまる 2005 ようどれの復元完了

浦添グスク・ようどれ館



古写真や発掘調査成果のパネル、出土遺物などから浦添グスクと浦添ようどれの歴史がわかりやすく学べます。
実物大で再現されたようどれの西室(英祖王陵)は必見!

【閉館時間】 午前9時～午後5時
【入 館 料】 大人(高校生以上) 100円
小人(小・中学生) 50円
※市内小中学生は無料
【休 館 日】 月曜日・12月28日～1月3日
【電 話】 098-874-9345

【ガイド料】
基本料金：ガイド一人当たり
3500円/2時間程度
追加料金：2時間以降～
1時間あたり1000円を申し受けます
※1時間1500円のコースも設定しました

平成22年度集計表 浦添グスク・ようどれ館

月	大人				小人				合 計				開館 日数	一日 平均
	100円	減免	計(人)	計(円)	50円	減免	計(人)	計(円)	徴収	減免	計(人)	計(円)		
4	174	9	183	17,400	5	125	130	250	179	134	313	17,650	26	12
5	246	3	249	24,600	3	24	27	150	249	27	276	24,750	27	10
6	229	337	566	22,900	4	211	215	200	233	548	781	23,100	25	31
7	274	61	335	27,400	6	113	119	300	280	174	454	27,700	27	17
8	256	5	261	25,600	19	133	152	950	275	138	413	26,550	26	16
9	277	2	279	27,700	0	9	9	0	277	11	288	27,700	26	11
10	329	15	344	32,900	5	177	182	250	334	192	526	33,150	27	19
11	436	328	764	43,600	12	14	26	600	448	342	790	44,200	25	32
12	338	22	360	33,800	4	13	17	200	342	35	377	34,000	24	16
1	326	3	329	32,600	8	3	11	400	334	6	340	33,000	24	14
2	75	553	628	7,500	0	3	3	0	75	556	631	7,500	24	26
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0
計	2,960	1,338	4,298	296,000	66	825	891	3,300	3,026	2,163	5,189	299,300	307	17
月平均人数													432	

平成22年度
浦添グスク・ようどれ館来館者アンケート年度集計

平成22年4月6日～平成23年1月30日

回答 476 名

		火	水	木	金	土	日	計	比率
年代	1 幼児					4	3	7	1.4
	2 小学生	4	6	13	2	26	21	72	13.9
	3 中学生	2	1	1	2	2	11	19	3.7
	4 高校生	1	2	6	1			10	1.9
	5 大学・大人一般	41	44	63	30	79	112	369	71.4
	6 65歳以上	8	6	8	6	3	9	40	7.7
	計	56	59	91	41	114	156	517	
人数	1 1人	13	15	20	16	26	33	123	25.1
	2 2人	19	22	35	12	36	64	188	38.3
	3 3人以上	21	18	23	13	41	64	180	36.7
	計	53	55	78	41	103	161	491	
お住まい	1 浦添市内	11	16	28	10	34	50	149	30.1
	2 浦添市以外の沖縄県内	16	17	26	15	35	68	177	35.8
	3 沖縄県外	24	18	28	15	36	35	156	31.5
	4 日本国外	2	5	2		1	3	13	2.6
	計	53	56	84	40	106	156	495	
浦添グスク・ようどれ館をどのようにして知りましたか。	1 浦添市の広報物で	3	6	10	3	13	21	56	10.9
	2 新聞・テレビ等	7	4	3	1	6	11	32	6.2
	3 インターネットで	6	9	11	5	8	10	49	9.5
	4 旅行社で	2		1	1	1		5	1.0
	5 人づてに	6	13	24	24	35	38	140	27.2
	6 その他	30	24	38	17	44	80	233	45.2
	計	54	56	87	51	107	160	515	

国内外別入域状況

【暦年】平成22年入域観光客統計概況(平成23年1月14日公表)

区分	入域観光客数(うち特例上陸者数)		前年比(人)			前年比(%)		対H20年比	
国内客	5,570,400	人	+	149,900	人	+	2.8%	△	3.9%
外国客	284,700	人	+	54,400	人	+	23.6%	△	13.2%
合計	5,855,100	人	+	204,300	人	+	3.6%	△	3.1%

■観光客一人当たりの県内消費額の内訳(前年との対比)

	金額(円)		構成比(%)		差異(円)	前年比差異(%)
	H21年(A)	H20年(B)	H21年	H20年	(A)-(B)	(A)-(B)/(B)
宿泊費	21,305	23,461	30.8%	32.5%	△ 2,156	△9.2%
交通費	7,558	7,825	10.9%	10.8%	△ 267	△3.4%
土産費	18,191	19,155	26.3%	26.5%	△ 964	△5.0%
飲食費	14,166	14,123	20.6%	19.6%	43	0.3%
娯楽費	6,321	6,162	9.1%	8.5%	159	2.6%
その他	1,553	1,483	2.2%	2.1%	70	4.7%
総額	69,094	72,209	100.0%	100.0%	△ 3,115	△4.3%

男女別比率

男女別比率では、「男性」が51.4%(平成20年度は45.8%)、「女性」が48.6%(平成20年度は54.2%)となっている。

年代別比率

年代別では、「40代」が最も多く、次いで「50代」、「30代」と続いている。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
平成21年度	1.1%	11.0%	21.1%	22.9%	21.6%	17.1%	3.0%	0.3%
(参考)平成20年度	1.3%	12.5%	21.2%	21.2%	22.3%	16.4%	4.8%	0.3%

旅行回数

沖縄県への旅行回数は、「初めて」が21.6%と最も多くなっている。しかし、「初めて」の比率は年々減少しており、平成9年以降は「初めて」をリピーター(再来訪者)が上回っている。

	初めて	2回	3回	4回	5～9回	10～19回	20回以上
平成21年度	21.6%	20.0%	13.7%	9.5%	18.5%	8.8%	8.0%
(参考)平成20年度	23.6%	22.2%	13.4%	8.9%	16.2%	8.4%	7.3%

旅行形態

「団体旅行」、「観光付きバック旅行」減少、「個人旅行」増加

リピーターの増加に伴い、添乗員付きでスケジュールのほぼ決まった旅行形態の「団体旅行」は減少傾向にある。一方、自由にスケジュールなどが組める旅行形態の「フリープラン型バック旅行」と「個人旅行」を合わせた比率は近年7割を超えて推移している。

平成21年度では、「フリープラン型バック旅行」、「個人旅行」を合わせた比率は、77.4%に達している。

「フリープラン型パッケージ旅行」が最も多く、4割超を占めている。「団体旅行」は減少傾向にある。

	団体旅行	観光付き パッケージ旅行	フリープラン型 パッケージ旅行	個人旅行
平成21年度	11.5%	11.1%	45.0%	32.4%
(参考)平成20年度	13.6%	12.0%	45.2%	29.2%

キ 旅行内容

旅行内容では、「観光地めぐり」の61.3%が最も多く、次いで「沖縄料理を楽しむ」38.1%、「ショッピング」26.7%、「海水浴・マリレジャー」25.2%となっている。

■旅行内容別シェアの変化

(単位:%)

	H12年度	H15年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
観光地めぐり	73.7	72.1	68.5	68.2	68.0	61.3
観光地参拝	19.8	16.3	12.4	12.7	10.2	9.9
海水浴等	28.6	34.1	25.1	24.5	25.1	25.2
マリレジャー	17.1					
ダイビング	9.3	8.7	7.7	6.6	7.6	8.7
保養・休養	22.2	17.6	16.6	19.1	23.2	26.1
スパ・エステ	-	-	3.8	4.4	4.0	3.4
ゴルフ	4.8	4.1	4.5	4.7	4.0	3.8
釣り	2.9	1.7	1.9	1.5	1.3	1.2
キャンプ	0.8	0.7	0.5	0.6	0.7	-
エコツアー	-	1.4	1.3	2.0	1.6	1.8
ショッピング	33.0	44.4	33.3	37.7	26.7	26.7
沖縄料理を楽しむ	-	-	38.5	39.9	40.3	38.1
新婚旅行	-	1.3	1.6	1.2	1.4	1.6
ウエディング	-	1.3	2.2	1.4	2.3	2.4
会議・研修	9.8	6.6	6.6	6.2	9.1	7.2
伝統工芸・芸能体験	-	-	-	-	-	6.1
イベント・伝統行事	4.0	4.0	4.6	4.8	3.1	3.3
仕事	8.0	11.0	12.0	9.4	10.7	11.1
スポーツ大会	1.8	1.5	1.8	0.7	1.2	1.5
帰省・親戚訪問	11.0	6.3	6.5	4.4	4.8	4.6
その他	3.9	4.9	3.7	6.4	7.4	5.7

注1)複数回答

注2)H12年度、H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値

同行者

同行者については、「夫婦」が19.4%と最も多く、次いで「子ども連れ家族」が17.0%、「仕事仲間」が15.7%となっている。

	一人	夫婦	子ども連れ家族	三世代家族	その他家族
平成21年度	15.3%	21.0%	17.2%	3.2%	7.4%
(参考)平成20年度	12.2%	19.4%	17.0%	3.1%	8.1%

	友人・知人	恋人	仕事仲間	地域団体やサークル	その他
平成21年度	14.0%	3.5%	12.9%	3.5%	2.2%
(参考)平成20年度	14.6%	3.5%	15.7%	3.6%	2.8%

旅行先

旅行先については、「沖縄本島」が84.9%と最も多くなっている。

	沖縄本島	その他本島周辺離島	宮古島及び周辺離島	石垣島及び周辺離島
平成21年度	84.9%	7.9%	6.5%	13.7%
(参考)平成20年度	85.5%	8.8%	5.5%	14.1%

注)複数回答

利用交通機関

利用交通機関については、レンタカー利用率が最も高く56.7%となっており、観光客の半数以上がレンタカーを利用している。

(単位:%)

	平成21年度	(参考)平成20年度
路線バス	8.5	7.0
観光バス	20.7	24.2
タクシー	34.2	32.8
モノレール	27.1	29.8
レンタカー	56.7	53.8
自家用車・公用車	6.7	5.5
航空機(県内)	14.2	14.1
船(県内)	12.1	11.9
自転車	3.2	2.6
その他	3.6	3.1

注)複数回答



平成9年度からリピーターがビギナーの比率を上回っている
平成19年度からはリピーター率が7割を超えている

沖縄県を訪れる観光客のうち、リピーター(再来訪者)が年々増加傾向にあり、平成9年度からビギナー(初回来訪者)の比率を上回っている。

平成21年度には、リピーターの比率は78.4%に達している。

《参考》観光収入、観光客一人当たり消費額及び入域観光客数の推移(暦年)

区分 年	観光収入		観光客一人当たり消費額		入域観光客数	
	(百万円)		(円)		(人)	
	実績	対前年比	実績	対前年比	実績	対前年比
昭和47年	32,448	-	73,132	-	443,692	-
48年	45,984	141.7%	61,919	84.7%	742,644	167.4%
49年	57,701	125.5%	71,656	115.7%	805,255	108.4%
50年	125,777	218.0%	80,727	112.7%	1,558,059	193.5%
51年	56,980	45.3%	66,149	84.4%	836,108	53.7%
52年	87,552	153.7%	72,889	107.0%	1,201,156	143.7%
53年	111,045	126.8%	73,912	101.4%	1,502,410	125.1%
54年	147,789	133.1%	81,745	110.6%	1,807,941	120.3%
55年	149,521	101.2%	82,698	101.2%	1,808,036	100.0%
56年	163,467	108.3%	84,697	102.4%	1,930,023	106.7%
57年	165,605	101.3%	87,242	103.0%	1,898,216	98.4%
58年	165,676	100.0%	89,458	102.5%	1,851,994	97.6%
59年	188,232	113.6%	91,664	102.5%	2,053,500	110.9%
60年	191,006	101.5%	91,746	100.1%	2,081,900	101.4%
61年	186,353	97.6%	91,854	100.1%	2,028,800	97.4%
62年	207,200	111.2%	92,060	100.2%	2,250,700	110.9%
63年	215,843	104.2%	90,107	97.9%	2,395,400	106.4%
平成元年	240,904	111.6%	90,189	100.1%	2,671,100	111.5%
2年	268,892	111.6%	90,897	100.8%	2,858,200	110.7%
3年	275,292	102.4%	91,323	100.5%	3,014,500	101.9%
4年	280,195	101.8%	88,897	97.3%	3,151,900	104.6%
5年	276,362	98.6%	86,721	97.6%	3,186,800	101.1%
6年	278,126	100.6%	87,491	100.9%	3,178,900	99.8%
7年	287,505	103.4%	87,683	100.2%	3,278,900	103.1%
8年	303,256	105.5%	87,659	100.0%	3,459,500	105.5%
9年	336,951	111.1%	87,130	99.4%	3,867,200	111.8%
10年	352,655	104.7%	85,461	98.1%	4,126,500	106.7%
11年	380,737	108.0%	83,519	97.7%	4,558,700	110.5%
12年	379,161	99.8%	83,863	100.4%	4,521,200	99.2%
13年	338,992	89.4%	76,463	91.2%	4,433,400	98.1%
14年	346,632	102.3%	71,704	93.8%	4,834,500	109.0%
15年	375,415	108.3%	73,831	103.0%	5,084,700	105.2%
16年	363,152	96.7%	70,490	95.5%	5,153,200	101.3%
17年	398,367	109.7%	72,421	102.7%	5,500,100	106.7%
18年	410,408	103.0%	72,797	100.5%	5,637,800	102.5%
19年	423,984	103.3%	72,239	99.2%	5,869,200	104.1%
20年	436,462	102.9%	72,209	99.96%	6,045,500	103.0%
21年	390,432	89.5%	69,094	95.70%	5,650,800	93.5%

注) 入域観光客数は入域観光客統計、個人消費額は観光客に対する任意アンケートによる。
平成12年以降は、航空乗客アンケート及び空港内アンケート調査を実施し、個人消費額を推計している。推計
方法の改訂等で、昭和51年から平成13年までの個人消費額と観光収入を遡及修正した。

「地域力」・「地域力向上とスポーツ」 (みんなのスポーツとしてのグラウンド・ゴルフ)

健康・福祉・スポーツ学部
090207 比 嘉 鉦 由

I. 設定理由

浦添市の行政側から施策立案・実施等行政運営のなかで「地域力」という言葉がキーワードの一つとしてよく聞かれる。てだこ市民大学での市長特別講話の中でもそのことが強調されていた。地域力とは何か。何を持って地域力の有る無しを判断するのか。どのようにしたら地域力の向上につながるのか、漠然としていて具体的な形をイメージするのは難しいと思われるので地域力や地域力向上とスポーツについて、自治会活動を中心に考えてみたい。

II. 研究内容

1. 地域力について

(1) 地域力の意味

- ① 地域・・・・・・一定の区域
- ② 地域社会・・・・・・一定の地域に生活することで利害関係等の面で結ばれている生活共同体と定義されている。
- ③ 自治会・・・・・・同一地域の住民などが共同生活を自主的に運営していくための組織

そのことから言葉の意味としての「地域力」とは、それぞれの地域、団体等が持っている総合力、団結力、結束力といえる。また、地域・団体等が持っている結束力「絆」の強弱で地域力が強い地域・団体、地域力が弱い地域・団体ということができる。

(2) 地域力が取り上げられる背景

- ① 浦添市制40年の間に人口3万余人から11万余人約4万3千世帯に増加し、急速に都市化する中で地域の生活共同体意識や結びつきが希薄になっていく状況にある。
- ② 都市化する中でも、浦添市は新興住宅地等、地域ごとに自治会組織が形成され、現在40自治会がそれぞれの地域づくりに活動しているが、自治会への加入率は3割程度であるといわれている。
- ③ 自治会以外の行政を補完するNPO法人は平成22年末で県全体459法人が認可されているが、浦添市在の認可法人は34法人となっている。(県のホームページ)
- ④ 自治会やNPO法人等の団体に属しない市民が大多数を占めている状況となっている。
- ⑤ 上記のことから、どのようにして市民のニーズに適う浦添のまちづくりをするかが課題となる。自治会活動の充実、NPO法人の推進はもとより、どの団体にも属していない多くの市民にいかに情報発信し意見をくみ上げ、安全で安心して暮らせる住みよいまちづくりを進めるかが行政をはじめ市民に求められているといえる。そのことが地域力がキーワードとして取り上げら

れる背景であると考えられる。

(3) 地域活動の動機付けとなる市民への公報・公聴の現状

① 広報うらそえの全戸配布

毎月広報うらそえの全戸配布が実施されている。その際、社協だより等のチラシでも必要な情報が提供されている。

② 浦添市のホームページ

ホームページで各種の情報は入手できる状況にある。

しかし、市民のインターネット普及は十分ではないと思われる。自治会においてもインターネットは普及していない状況である。

③ 行政事務連絡会議（自治会長会）

毎週自治会長（行政連絡員兼務）を中心に行政連絡会議が開かれ情報が提供され、市民に情報が発信されるシステムとなっている。自治会長（行政連絡員兼務）が即対応できるので効果的に機能していると評価できる。

④ 議会の開催

本会議の審議は、公開されており市民の情報源となっている（各種委員会は原則公開ではない）。平成 21 年度の傍聴者は、350 人（内予算審議は 44 人）となっている。（議会事務局）

各種委員会が公開されれば傍聴者はもっと増えると考えられる。

⑤ 行政懇談会

公聴として 2～3 の行政区を単位として合同の行政懇談会を毎年 2, 3 箇所で開催されている。（担当：国際交流課）

しかし、自治会館での開催、自治会の要望・意見が主たる内容となっていることから、自治会員以外の住民の意見は反映されにくいし参加しにくい状況と思われる。

⑥ 御意見箱の設置

一般市民からの意見を聴取するため市役所に御意見箱が設置されている。

平成 21 年度は 104 件の市民の意見があった。（担当：国際交流課）

(4) 自治会の地域力（自治会力）

① 行政との関係

自治会は行政との関係で見ると、行政と連携して自主的に運営されている最も基礎的団体と位置付けることができる。そのため、行政事務連絡会等に参加し行政の情報を適時適切に入手し、地域住民に提供するとともに、地域として適切な対応を実施することが求められている。

自治会が地域住民の自主的運営組織として、各種の事務・事業等実施する祭、その実現に向けての総合力がいわゆる自治会の地域力（自治会力）であるということができる。

② 地域力（総合力）の基楚になっているのは何だろうか。

地域力（総合力）の根っこにあるのは、人と人とを結びつける「絆」であると考えられる。その要素として、一つには「共同生活体として顔が見える関係」となっているか。二つには「相互の信頼関係」が築かれているかが大きな意味を持つことになる。「絆」を作るには共通の「喜怒哀楽」を共有することが必要であると考えられる。

各自治会では地域の信頼関係を築き、地域共同体の意識を高め、安全で安心して暮らせる地域にするために、恒例の行事を継続実施することは基より

毎年特色ある行事を企画・実施し「喜怒哀楽」を共有しているといえる。

また、自治会の行事以外の老人会、婦人会、青年会、子ども会等の活動が活発に行われることは、絆が深まり自治会活動ひいては地域力の大きな原動力になっていることも確かである。

(5) 地域力が最も必要とされる場面

台風、地震、火災、水害等災害時においては、「自助、共助、公助」といわれているが初期段階における自助、共助が最も大切であるといわれている。

つまり、公的支援体制が整い、実施されるまでの間、地域や自治会には迅速に被災者を救助し支援する活動が求められ、地域力が最も発揮されなければいけない場面であるといえる。

2. 地域力の向上とスポーツ(特にグランドゴルフについて考える)

(1) スポーツの大衆化「みんなのスポーツ」

「みんなのスポーツ」・・・性、年齢、職業、階層、居住地域等バリエーションを越えたすべての人々のスポーツ

現代スポーツは、高度化（高さ）と大衆化（広がり）の二つの方向に向けて膨張しているといわれているが、地域力の向上とスポーツというテーマから、後者を前提に考えることとする。

テクノ化した現代社会においては、健康不安、運動不足が蔓延し、日常生活におけるスポーツの必要性が増大する。また、労働時間の短縮と長寿化は自由時間を増大しスポーツの可能性を増大させ、福祉政策の流れと一体化することで一般市民の健康と福祉の向上を求めるスポーツの大衆化政策が取られるようになる。そのようなことから健康や楽しみを求めて自発的に行われる運動として「みんなのスポーツ」が市民スポーツ施設が整備される中で定着していった。

(2) 市民スポーツ施設の利用状況

平成21年度の市民スポーツ施設の利用状況は下記のとおりになっている。

(体育施設管理資料(施設管理者)を総括した。)

種目 施設	ハンド ボール	バドミ ントン	バレー ボール	バスケット ボール	卓球	テニス	ゲートボール/ グランドゴルフ	野球	その他	合 計
体育館	34,051	20,466	17,993	11,224	10,518	672			82,512	177,436
武道場									17,570	17,570
トレーニング室等									23,530	23,530
屋内運動場	9,311			2,584		11,352	150	11,388	34,672	69,457
野球場								85,818	0	85,818
テニスコート						38,304			0	38,304
ゲートボール場							38,361		0	38,361
陸上競技場等									243,377	243,377
合 計	43,362	20,466	17,993	13,808	10,518	50,328	38,511	97,206	401,661	693,853

注:その他:インディヤカ、柔道・剣道・空手、体操・ダンス、ミニサッカー、相撲等、及び陸上競技場利用者等である

(3) スポーツの効用

- ① スポーツは、暮らしの中に「健康・楽しみ・交流」を広く生み出す効用があるといわれている。
- ② 高齢化社会の中でいかに過ごすか。長く生きることと同時に豊かに生きること、クォーリティーオブライフ(QOL)をどう作り上げるかが大きなテーマとなるが、その一つとして、ライフステージ毎のQOLを高める運動、生涯にわたって自己開発を求める運動として生涯スポーツが挙げられる。

- ③ スポーツをすることで、満足感、達成感が得られ、連帯感が生まれる。
- ④ 「喜怒哀楽」を効果的に共有でき、太い絆を作ることができる。

(4) グランド・ゴルフ

(2) スポーツ施設利用状況から、述べ 69 万人余の人がスポーツ活動を行っていることが分かる。残念ながら浦添市民の利用者の数は特定できなかったが大多数は浦添市民と見ることができる。

種目別に見ると野球、テニス(硬式、軟式)、ハンドボール、ゲートボール、グランド・ゴルフ、バドミントン、バレーボールの利用者が多い。

自治会活動の中でスポーツを見た場合、体育協会主催の自治会対抗戦が行われているスポーツは陸上競技大会をはじめ9競技があるが、最大の大会である陸上競技にしても平成22年度の参加は、40自治会中半分の21自治会に留まっている状況である。

そんな中で全自治会が参加できるスポーツとしてグランド・ゴルフを考えてみたい。

「グランド・ゴルフは専用のクラブで、ボールを使い、ゴルフのようにボールポストへホールインするまで、8ホール回った合計打数を競い、一番少ない人が勝者となるゲームである」

- ① ルールが簡単で技術的にも難しくなく、誰でも勝チャンスがあるスポーツである。団体戦等いろいろなプランが可能である。
- ② 広場があればそれに合わせたコース設定が簡単にできる。
- ③ 子どもから年配、男女間の力の差がなく、誰でも気軽に楽しめる生涯スポーツでコミュニケーション効果も大きい。
- ④ 上記の利用状況の数値から愛好者が多い。(ゲートボール場の利用者区分はできなかったが両方楽しんでいる考えることができる。)
- ⑤ ほとんどの自治会が用具を保有し、独自の企画でグランド・ゴルフを盛んに行っている。(未実施自治会4、年2回以上実施6・・・自治会長聞き取り)
- ⑥ 県老連による県大会も実施されており、全国での愛好者は150万人といわれている。

Ⅲ. まとめ

以上のことから、グランド・ゴルフは地域住民みんなが参加し、「健康・楽しみ・交流」を広げ、連帯感や信頼関係を構築することで「絆」を深め地域力を向上させる「るみんなのスポーツ」と位置付けることができると思う。

浦添市老人クラブ連合会が市の委託事業として行っている市民グランド・ゴルフ大会を全40自治会が参加する自治会対抗グランドゴルフ大会に拡大することができれば、浦添市としての地域力向上にも役立つと考える。ほとんどの自治会が実施しており、自治会長会を中心に市老連、市体育協会と連携し実行委員会を立ち上げ、チームも一般から70代以上までの6人構成とし、男女対抗戦とするなどワクワクする企画で陸上競技場が40自治会のテントで埋め尽くされる浦添市の一大スポーツイベントに仕立て上げることは十分可能であると考えられる。

Ⅳ. 参考文献、資料

- ①浦添市勢要覧 ②公報うらそえ ③県ホームページ ④健康福祉スポーツ学部講座配布資料 ⑤体育施設管理資料(施設管理者) ⑥市体育協会理事会資料等

(資料)

体育館・武道場・屋内運動場・野球場・テニスコート等利用状況「総合計」(H21年度)

月	区分	体育館		武道場		屋内運動場		野球場・テニスコート等		合 計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
	専用	11	4,660	27	651	5	510	835	35,387	878	41,208
4	部分	364	4,053	2	2,447	295	4,768	30	3,528	691	14,796
	専用	17	7,578	23	638	11	4,120	879	13,276	930	25,612
5	部分	555	6,339	0	2,621	284	4,133	42	18,248	881	31,341
	専用	13	3,120	25	981	6	1,145	742	14,079	786	19,325
6	部分	473	5,482	0	2,865	343	5,279	26	16,621	842	30,247
	専用	4	1,310	35	749	5	410	873	12,763	917	15,232
7	部分	265	2,627	0	2,562	307	4,786	24	21,222	596	31,197
	専用	21	8,270	31	851	15	2,258	1,020	15,602	1,087	26,981
8	部分	451	4,920	0	2,603	300	3,445	30	25,234	781	36,202
	専用	19	5,806	26	820	19	3,571	792	16,303	856	26,500
9	部分	439	4,820	0	2,566	256	3,157	41	32,075	736	42,618
	専用	16	5,256	35	848	37	7,064	792	16,636	880	29,804
10	部分	516	5,818	0	2,678	235	3,047	28	20,391	779	31,934
	専用	13	5,100	36	918	31	5,517	696	16,096	776	27,631
11	部分	513	6,398	0	2,537	222	2,852	20	18,658	755	30,445
	専用	15	11,798	31	1,064	14	540	718	13,996	778	27,398
12	部分	332	3,805	0	1,902	274	4,409	6	13,463	612	23,579
	専用	19	7,164	46	1,375	4	1,120	709	11,738	778	21,397
1	部分	428	4,550	0	2,427	120	1,506	6	15,385	554	23,868
	専用	19	50,300	52	1,625	28	1,960	637	13,834	736	67,719
2	部分	324	3,045	0	2,415	0	0	0	10,991	324	16,451
	専用	23	12,800	28	875	25	1,835	834	14,059	910	29,569
3	部分	272	2,417	0	2,082	156	2,025	21	16,275	449	22,799
	専用	190	123,162	395	11,395	200	30,050	9,527	193,769	0	0
小計	部分	4,932	54,274	2	29,705	2,792	39,407	274	212,091	0	0
合計		5,122	177,436	397	41,100	2,992	69,457	9,801	405,860	0	0
										18,312	693,853

体育館種目別利用状況(平成21年度)

月	区分	テニス		バドミントン		バレーボール		バスケットボール		ハンドボール		インディアカ		卓球		その他		合計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
	専用	0	0	2	900	0	0	0	0	2	2,000	1	120	0	0	6	1,640	11	4,660
4	部分	0	0	147	1,237	34	554	32	717	10	435	21	289	112	661	8	160	364	4,053
	専用	0	0	1	150	3	860	3	3,000	4	1,900	0	0	1	200	5	1,468	17	7,578
5	部分	3	27	227	1,895	39	663	44	901	29	1,248	29	409	171	935	13	261	555	6,339
	専用	0	0	2	300	2	440	1	150	6	2,000	0	0	0	0	2	230	13	3,120
6	部分	4	26	200	1,819	36	630	36	854	18	707	30	417	138	825	11	204	473	5,482
	専用	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1,200	1	110	0	0	0	0	4	1,310
7	部分	1	6	92	826	17	247	12	116	16	414	8	108	116	797	3	113	265	2,627
	専用	0	0	3	450	9	5,130	1	300	5	2,100	0	0	2	250	1	40	21	8,270
8	部分	9	65	179	2,269	20	250	38	439	11	272	26	382	157	1,007	11	236	451	4,920
	専用	0	0	2	500	1	300	1	300	10	4,100	0	0	1	200	4	406	19	5,806
9	部分	2	20	175	1,593	37	540	29	617	34	808	17	228	135	682	10	332	439	4,820
	専用	0	0	0	0	3	416	1	200	3	2,400	1	130	1	40	7	2,070	16	5,256
10	部分	14	99	204	2,041	39	517	34	601	39	1,159	17	266	153	844	16	291	516	5,818
	専用	0	0	0	0	5	930	2	650	4	3,200	0	0	0	0	2	320	13	5,100
11	部分	8	75	172	1,778	50	1,019	38	710	32	1,185	18	270	180	1,018	15	343	513	6,398
	専用	0	0	2	600	0	0	0	0	7	1,620	1	120	0	0	5	9,458	15	11,798
12	部分	3	20	112	1,145	18	318	22	343	27	925	14	214	128	736	8	104	332	3,805
	専用	0	0	1	200	2	600	0	0	4	3,200	0	0	6	184	6	2,980	19	7,164
1	部分	18	137	159	1,371	30	487	31	469	25	903	12	196	137	770	16	217	428	4,550
	専用	0	0	0	0	0	0	2	400	2	1,400	0	0	0	0	15	48,500	19	50,300
2	部分	18	132	98	839	23	364	25	266	17	535	10	164	121	584	12	161	324	3,045
	専用	0	0	0	0	4	3,400	0	0	1	120	0	0	1	30	17	9,250	23	12,800
3	部分	9	65	65	553	22	328	14	191	7	220	9	138	138	755	8	167	272	2,417
	専用	0	0	13	3,100	29	12,076	11	5,000	51	25,240	4	480	12	904	70	76,362	190	123,162
小計	部分	89	672	1,830	17,366	365	5,917	355	6,224	265	8,811	211	3,081	1,686	9,614	131	2,589	4,932	54,274
合計		89	672	1,843	20,466	394	17,993	366	11,224	316	34,051	215	3,561	1,698	10,518	201	78,951	5,122	177,436

武道場種目別利用状況(H21年度)

月	区分	空手・古武道		剣道・居合		柔道・合気道		体操・ダンス		その他		武道場 計		トレーニング室		ジョギング		合 計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	専用	0	0	1	15	15	410	11	226	0	0	27	651					27	651
	個人	0	235	0	24	0	76	2	77	0	0	2	412		2,014		21	2	2,447
5	専用	1	20	1	15	10	300	8	160	3	143	23	638					23	638
	個人		288		35		77		144			0	544					0	2,621
6	専用	1	100	1	15	11	330	8	160	4	376	25	981					25	981
	個人		347		82		71		205			0	705		2,130		30	0	2,865
7	専用	0	0	0	0	14	390	21	359	0	0	35	749					35	749
	部分		282		95		63		157	0	0	0	597		1,954		11	0	2,562
8	専用	1	80	5	175	12	360	9	176	4	60	31	851					31	851
	個人		200		82		68		133	0	0	0	483		2,103		17	0	2,603
9	専用	1	200	3	40	10	300	10	200	2	80	26	820					26	820
	個人		207		73		100		137	0	0	0	517		2,029		20	0	2,566
10	専用	4	90	1	15	16	428	13	225	1	90	35	848					35	848
	個人		247		87		87		160	0	0	0	581		2,076		21	0	2,678
11	専用	7	215	1	10	13	380	11	197	4	116	36	918					36	918
	個人		232		73		65		151		0	0	521		2,002		14	0	2,537
12	専用	3	130	1	30	10	275	13	259	4	370	31	1,064					31	1,064
	個人		131		81		47		99		0	0	358		1,532		12	0	1,902
1	専用	1	60	1	80	15	694	29	541	0	0	46	1,375					46	1,375
	個人		167		122		121		145		0	0	555		1,833		39	0	2,427
2	専用	2	70	0	0	14	409	26	526	10	620	52	1,625					52	1,625
	個人		212		63		84		73		0	0	432		1,965		18	0	2,415
3	専用	0	0	1	20	12	390	12	225	3	240	28	875					28	875
	個人		234		64		94		78		0	0	470		1,602		10	0	2,082
小計	専用	21	965	16	415	152	4,666	171	3,254	35	2,095	395	11,395	0	0	0	0	395	11,395
	個人	0	2,782	0	881	0	953	2	1,559	0	0	2	6,175	0	23,270	0	260	2	29,705
合計		21	3,747	16	1,296	152	5,619	173	4,813	35	2,095	397	17,570	0	23,270	0	260	397	41,100

屋内運動場種目別利用状況(H21年度)

月	区分	テニス		3オン3バスケット		ハンドボール		ミニサッカー		ドッジボール		ゲートボール		野球		その他		合計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
	専用	2	80	0	0	0	0	1	150	0	0	1	80	1	200	0	0	5	510
4	部分	131	861	0	0	27	1,010	63	869	0	0	0	0	64	1,108	10	920	295	4,768
	専用	3	640	1	1,200	2	1,000	2	400	0	0	0	0	0	0	3	880	11	4,120
5	部分	148	1,089	1	20	22	768	63	933	1	55	0	0	40	568	9	700	284	4,133
	専用	1	40	0	0	0	0	1	30	0	0	0	0	0	0	4	1,075	6	1,145
6	部分	184	1,282	0	0	22	748	71	1,158	0	0	0	0	54	746	12	1,345	343	5,279
	専用	0	0	0	0	0	0	1	120	0	0	0	0	0	0	4	290	5	410
7	部分	152	1,072	1	7	29	952	57	860	0	0	0	0	57	985	11	910	307	4,786
	専用	5	198	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	2,060	15	2,258
8	部分	138	791	3	57	15	544	62	943	0	0	0	0	77	910	5	200	300	3,445
	専用	2	60	1	1,300	2	60	2	230	1	100	0	0	0	0	11	1,821	19	3,571
9	部分	148	896	0	0	18	821	50	729	0	0	0	0	35	501	5	210	256	3,157
	専用	8	100	0	0	1	500	1	50	0	0	1	70	0	0	26	6,344	37	7,064
10	部分	131	967	0	0	12	473	49	762	0	0	0	0	35	491	8	354	235	3,047
	専用	12	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	5,367	31	5,517
11	部分	125	945	0	0	11	465	52	836	0	0	0	0	34	606	0	0	222	2,852
	専用	11	140	0	0	0	0	1	40	0	0	0	0	2	360	0	0	14	540
12	部分	138	931	0	0	16	660	62	895	0	0	0	0	51	888	7	1,035	274	4,409
	専用	0	0	0	0	2	800	2	320	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1,120
1	部分	63	433	0	0	3	110	29	468	0	0	0	0	25	495	0	0	120	1,506
	専用													28	1,960			28	1,960
2	部分																	0	0
	専用	6	230	0	0	2	400	0	0	0	0	0	0	13	685	4	520	25	1,835
3	部分	67	447	0	0	0	0	39	682	0	0	0	0	49	885	1	11	156	2,025
	専用	50	1,638	2	2,500	9	2,760	11	1,340	1	100	2	150	44	3,205	81	18,357	200	30,050
小計	部分	1,425	9,714	5	84	175	6,551	597	9,135	1	55	0	0	521	8,183	68	5,685	2,792	39,407
合計		1,475	11,352	7	2,584	184	9,311	608	10,475	2	155	2	150	565	11,388	149	24,042	2,992	69,457

4

野球場・テニスコート等利用状況(H21年度)

月	区分	ゲートボール場		港川球場		伊奈武瀬球場		市民テニスコート		市民相撲場		サブグラウンド		市民球場		陸上競技場		合 計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	専用	190	2,994	41	841	48	8,079	497	3,224	21	310	26	2,215	12	3,225		14,499	835	35,387
	部分													30	3,528			30	3,528
5	専用	200	3,193	30	811	40	3,113	539	3,521	13	208	43	810	13	1,520	1	100	879	13,276
	部分													42	2,395		15,853	42	18,248
6	専用	189	2,873	29	1,812	37	2,526	432	2,052	10	1,327	23	1,179	10	1,220	12	1,090	742	14,079
	部分													26	1,240		15,381	26	16,621
7	専用	174	2,916	36	1,118	40	1,919	565	3,852	12	223	21	870	10	525	15	1,340	873	12,763
	部分													24	945		20,277	24	21,222
8	専用	182	2,966	42	1,211	50	1,969	656	4,767	14	167	48	2,142	16	2,120	12	260	1,020	15,602
	部分													30	2,603		22,631	30	25,234
9	専用	198	3,586	30	733	34	1,244	465	3,030	7	107	32	1,098	10	1,650	16	4,855	792	16,303
	部分													41	2,429		29,646	41	32,075
10	専用	216	4,397	31	1,858	37	3,543	463	3,275	0	0	23	2,207	7	920	15	436	792	16,636
	部分													28	1,390		19,001	28	20,391
11	専用	179	3,153	32	1,004	30	2,204	417	2,831	5	69	9	225	8	1,420	16	5,190	696	16,096
	部分													20	900		17,758	20	18,658
12	専用	196	3,098	20	712	49	2,805	421	2,904	1	14	16	383	6	540	9	3,540	718	13,996
	部分													6	520		12,943	6	13,463
1	専用	195	2,989	26	1,481	35	2,010	430	3,090	0	0	4	480	8	876	11	812	709	11,738
	部分													6	880		14,505	6	15,385
2	専用	162	3,015	28	1,527	37	2,939	352	2,511	1	2	27	1,890	27	1,890	3	60	637	13,834
	部分																10,991	0	10,991
3	専用	193	3,181	34	1,027	48	2,375	492	3,247	8	11	33	1,645	19	2,404	7	169	834	14,059
	部分													21	1,817		14,458	21	16,275
小計	専用	2,274	38,361	379	14,135	485	34,726	5,729	38,304	92	2,438	305	15,144	146	18,310	117	32,351	9,527	193,769
	部分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	274	18,647	0	193,444	274	212,091
合計		2,274	38,361	379	14,135	485	34,726	5,729	38,304	92	2,438	305	15,144	420	36,957	117	225,795	9,801	405,860

卒業研究

学部名：文化振興・教養学部

氏 名： 仲 村 正 夫

1. テーマ

—地域資源(文化遺産、伝統・創作
芸能、各種NPO等)の利活用「2つ
の企画提案」

仮 称

1. 「万国津梁祭」

2. 「てだこウォーク

しい～ぶんコース」

1. はじめに

てだこ市民大学で学んだ沖縄・浦添の歴史は、それぞれの時代の政治の仕方、経済・文化を発展させ、暮らしを良くしようとして生きてきたあゆみであった。

歴史を学ぶ事より、「温故知新」※1のごとく浦添の未来を切り開く道しるべとなった。

浦添市においては、まちづくりの目標として～太陽とみどりあふれた国際性ゆたかな文化都市～を掲げており、歴史・文化遺産等が重要な項目となる。

さらに、「地域力」をまちづくりの原動力に据えて、施策展開を目指しており、自治会、NPO各種団体と協働が大事となる。

2. 研究概要

沖縄県では、21世紀ビジョンにおいて、自立型経済達成への道のりは、観光産業が中心としている。

浦添市における、歴史背景と地域資源を活用した、観光メニューとなるような二つの企画提案を考えてみた。

一つ目は、浦添市はかつて、琉球最古の貿易港として、牧港港がアジア諸国と貿易を盛んに行われたという背景がある。

現在浦添の西洲地域に、沖縄の物流拠点である卸売団地があり、近隣に組踊の国立劇場、大きな緑地と浦添ふ頭がある、この地域特性を活かし、人・物・文化の情報発信の場として活用を図れるイベントを提言する。

二つ目は、地域のNPOが作製した「散策マップ」と「てだこウォーク」をリンクさせて、観光と地域活性化を図れる仕組みを提言する。

※1 温故知新(おんこちしん)。(意味)昔のことを良く知り、そこから新しい知識や道理を得ること。

3. 仮称「万国津梁祭」 サブテーマ「人・物・文化発信」 ※資料1参照

3. 1企画の目的(背景)

市民大学で学んだ文化・芸能等は、地域や季節限定である。市内の芸能を一同に発信できる場作りと県産品・浦添産品・輸入品物資の県内外・外国への情報発信。

3. 2企画概要(人・物・文化)

①物: 西洲では、H4年10月「輸入品フェア&卸団地祭りin西洲」を開催した実績があり、物流の拠点である。

団地内駐車場・倉庫を活用しての、食糧雑貨・食肉・海産・乾物・菓子・日用雑貨、市内産業物資の物産展や情報発信を行う。

②人: 浦添ふ頭を活用し、大型クルーズ船を西洲に誘致し(現代版御冠船)海外との交流を図る。

③文化: 西洲内道路一部歩行者天国とし冊封使行列実施。

・伝統文化発信ブース: 伝統芸能の前田の棒術、内間・勢理客仲西獅子舞・旗頭・小湾アギバーリー・空手等実施

・創作文化ブース: 子供文化連盟(ダンス、演劇、コーラス、琉球和太鼓、オーケストラ)、ハワイアンフラ、中国武術等

・組踊ユネスコ指定記念ブース: 国立組踊劇場、組踊公園活用しての、シンポジウムや子供組踊実施

・スポーツ発信ブース: 浦添南緑地を活用して、スポーツイベント(サッカー等)の実施。

緑地予定地を、駐車場として活用し、多くの来場者の獲得を図る。

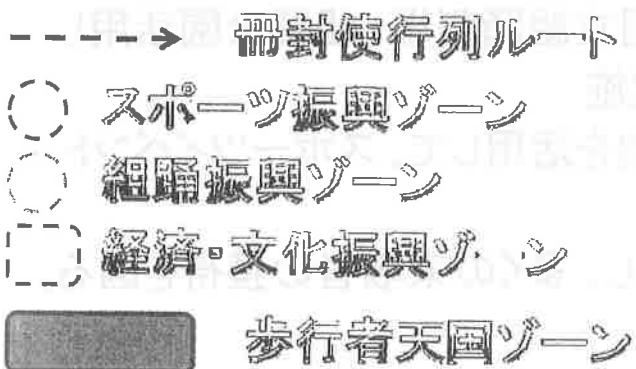
3. 3企画の効果

①クルーズ船(台湾)を活用したに、外国人観光客の誘致

②浦添市内における、文化・芸能を県内外発信と地域の方々の再認識による「地域力」向上を図る。

③西洲地域の、市民のための新たな利活用。

資料1



4. てだこウォーク「しーぶん※2コース〇〇」 ※資料2参照

4. 1「目 的」

今回提案理由の背景には、ボランティアとして2回、てだこウォークを体験した。開催も10回を数え、次年度は5年毎のコース変更にあたるため、文化振興と観光面からの新たな取り組みが出来ないか考察してみた。

4. 2「検 証」

てだこウォークは、第6回まで参加者総数は順調に推移してきたが、それ以後は、横ばい状況の8千人前後である、その内訳は市内約5千人、市外3千人、県外3百人である。市内参加者は、浦添市民の5%の参加であり、まずは10%の1万1千人を目指し、県外からも目指せ1千人である。

4. 3「あらたな取組」

NPOが作製・実施している、地域散策マップをてだこウォークの5・10Kmコースとリンクさせる。

NPO散策コース作製のノウハウを活用し、地域と行政協働で、新たな地域参加型の散策コース作りを行う。

4. 4「新たなエクス」

各地域の散策コースを、ボランティア基金コースと位置付け、下限参加料は設定し、上限設定は行わず、趣旨に賛同する寄付を受け付ける。

売上をガイド料や保存すべき施設の管理、散策道路の美化活動へ活用し、目に見える形で地域へ還元する仕組みを整えていく。

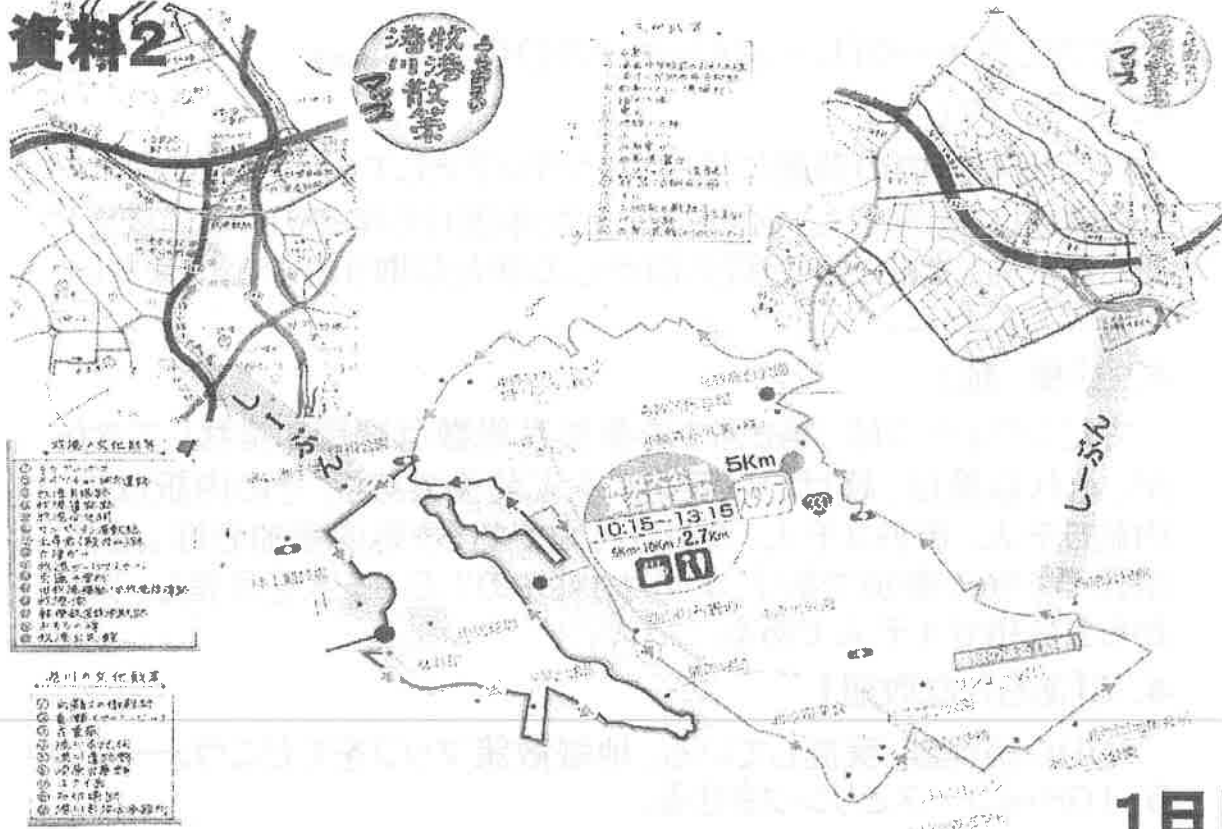
4. 5「効 果」

地域参加型の散策コース作りより、このエリアのスタッフを地域の方で、安全管理、サービス提供を含め、自らの地域を自らの手で活性化できる、きっかけにつながっていける。

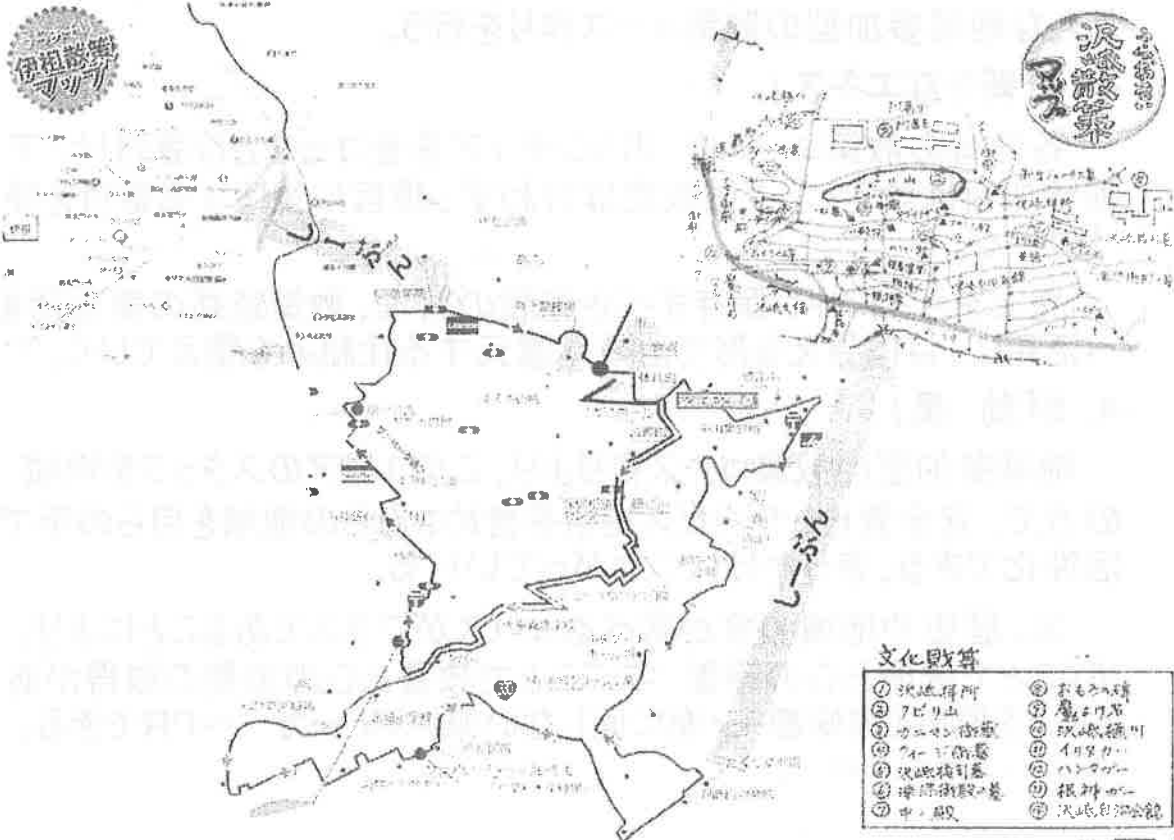
又、歴史や地域の食が学べるコースがプラスであることにより、歩くことで健康と心の静養、学ぶことで教養と心の栄養の取得があることを県外(姉妹都市・海に面しない県)ウォーカーへPRできる。

※2しーぶん(意味)おまけ

資料2



伊予国



5. 検討課題

クルーズ船の浦添への誘致、沖縄県卸商業団地協同組合や各種団体・行政との協働が必要となる。

散策コースの文化施設や地形が、大きく変化していることから、過去の写真、映像、文献等から情報の集積、電子媒体活用等を官・民協働で整理する必要がある。

6. 結 論

政府の施策において、地域の各種組織と地方自治体と協働で行う新たな事業に対し、予算措置できる新たな取り組みがなされてきている(新たな公共)。

又、沖縄県においては23年度より「文化観光スポーツ部」の新設がなされ、新たな一步を踏み出そうとしている。

同じくして、てだこ市民大学の学生一期生が巣立ち、羽ばたくためにも、新たな取り組みを、発案して行動に移さなければ、地方分権の大波は乗りこなせないと考える。

さらなる、「文化都市」の発展を目指すための条件は、整いつつあることから、文化を絡めた今回の二つの提案を、実施可能にするためには、行政・民間企業・住民・各種団体と共通のビジョンを互いに理解し、協働でまちづくりに取り組むことになる。

7. 参考文献、資料

○てだこウォーク実行委員会

うらそえツーデーマーチマップ資料

○NPO法人 うらおそい歴史がいど友の会

うらおそい散策マップ(伊祖・西原・港川・沢岬)

○浦添市教育委員会

浦添ようどれ、玉城朝薫の墓、浦添城跡、浦添御殿の墓、仲間桶川、中頭方西海道等パンフレット)

○第三次浦添市総合計画(概要版)

○浦添市社会体育課提供

てだこウォーク参加者集計資料(参考)

○沖縄学習まんが 組踊がわかる本

8. あとがき

今後とも、「まくとうんそ〜け なんくるないさ」(信念をもって真実の事を成し遂げる人は、自ずとなんとかなるものさ)の精神で楽しく喜びあえる、まちづくりに尽力をつくしていきたい。

平成23年2月1日

卒業研究（レポート）

テーマ： 伊祖のムラ・門中の祭祀にみる

伊祖の古村落的祭祀信仰と習俗

浦添市てだこ市民大学文化振興・教養学部学生番号：No 090312氏 名：津波古 重男

伊祖の祭祀信仰について、浦添市史や関連文献等を調査し、ムラや門中の祭祀行事に同行して記録を取り、その結果を卒業研究・「伊祖の古村落的祭祀信仰と習俗」（別冊）としてまとめました。しかしながら冊子は部厚なものとなりました。

そこで、この卒業研究レポートでは、卒業研究・別冊を構成する2部7章について、その大意を記載しています。

なお、別冊「伊祖の古村落的祭祀信仰と習俗」に目を通していただければ感謝いたします。

卒業研究をまとめるにあたり、伊祖自治会（銘苅嘉市会長、事務の渡名喜政子氏）と安里門中（安里正一門中代表、安里盛義氏、安里正三郎氏、他）の方々には多くの地域情報を提供していただきました。また祭祀行事に参加することを快く承いただきました。

また過年度になりますが、「仲間の御願解き」では、仲間自治会（又吉武市会長及び役員の皆さん）には祭祀行事に参加することを快く承いただきました。

ここに両自治会及び関係者の皆さまに深くお礼申し上げます。

1、テーマ選定とスケジュール

民俗学に興味があつて、これまでに浦添市史をはじめ著名な民俗学者の著書等を読んできましたが、多読乱読や拾い読み程度に終始し振り返ってみれば知識としての纏まりもなく、そのうえ日常生活との乖離が甚だしくたいへん残念に思っているところでした。

幸いに、浦添市てだこ市民大学に入学を許され、浦添の太古から現在にいたる歴史・民俗や日常生活文化を学ぶ機会に恵まれました。これを好機として、脈々として伝承されてきた浦添の歴史を学び深め、できれば私なりに整理したいと考えました。卒業研究については入学後しばらくして検討を始めました。テーマをどうしようかとあれこれと考え迷いましたが、結局浦添における「古村落の祭祀信仰とその現在の様相」を想定しました。

一口に民俗学と言っても、時代（時間）を縦軸に日常生活を横軸にして捉えれば、その内容は多岐にわたりその奥深さは計り知れない。祭祀信仰はその一つに過ぎない。琉球・沖縄に生を受けた我々はその民俗を心身ともに浴びて育った。それだけに古へ人は「生と死」・「神（祖先神）」をどのように思い考え、かつ調和し共存してきたか、それはどのようにして今に伝承されてきたか、21世紀に生きる我々は21世紀の子や孫に何をどのように伝えようとしているのか、等々について真摯に考えることは大切なことだと思います。

これまでに多くの著名な学者や研究者、先達が調査研究されその成果は数多くの書籍として出版されています。それでもなお、今も次から次へと研究論文や成果が発表されています。

このテーマは、あまりにも遠大なテーマであるにもかかわらず、いたって身近で日常生活そのもので、いわば空気のような存在ではなかろうか。それだけに興味は尽きないようです。

この卒業研究では、身近な地域や村人を訪ね歩き、時間の壁を取り払い先人たちの歩んだ道を歩き、先人の残した成果を訪ね歩く—そのための第一歩となり端緒となれればと考えています。さらに、年月を重ねて多くの人に教えを乞い、地域を踏査・研究を重ねていくきっかけになればとも考えています。

調査と研究スケジュール

	平成21年		平成22年										平成23年				
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事前準備																	
	伊祖自治会（会長）及び門中代表者との事前了解と打合せ・調整 浦添市史、その他の文献の読み込みと整理																
文 献 調 査 と 現 地 確 認 等	浦添のシマ・ムラ 概要															文献資料整理	
	祭祀信仰と年中行事															文献資料整理	
	聖地としての浦添グスク																
	伊祖の古村落の祭祀信仰と 年中行事															文献資料整理	
	伊祖村の聖処															伊祖の聖処・所在確認と撮影 等 文献資料整理	
	伊祖の門中の祭祀信仰と 年中行事															文献資料整理	
	伊祖村の祭祀行事の現在 (同行記録写真)																清明祭 五月ウマチー 八月ウビナディー
報告書作成 (整理とまとめ)																	報告書作成

2、研究内容

本書は、二部構成となっています。

第1部は、1章～3章で構成し、琉球・沖縄・浦添における考古学的・歴史的見地から、先史時代から現代にいたる歴史的流れを概観した。また、浦添における伝統祭祀信仰と年中行事を整理し、浦添グスクにおける祭祀信仰との関係性を試みた。

第2部では、4章～7章で構成している。4章～6章では、伊祖ムラにおける古村落的祭祀信仰の整理を試みた。伊祖ムラの古村落的祭祀信仰・年中行事や伝承を中心にして概観し、御嶽や井泉など聖処を実際に確認した。最終章の7章では、現在でも自治会や門中で実施している祭祀行事に参加してその様相を確認することを試みた。その時の同行記録写真をまとめて掲載した。

第1部 浦添の祭祀信仰と年中行事

第1章 浦添のシマ・ムラ 概要

浦添を含む沖縄の考古学で言うところの暫定編年表を基と、安里進著の「考古学からみた琉球史上」から琉球の歴史展開図を掲示して、琉球・沖縄における先史時代から現代にいたる歴史的展開過程をとらえた。

次いで、長間康彦氏の、「おもろそうし」や「琉球国由来記」など古文書を基に作成した「浦添のムラ・シマの変遷」資料を取り上げて、浦添における集落の成立と変遷を縦覧した。

第2章 浦添の祭祀信仰と年中行事

浦添市史によれば、信仰を二つに分類して整理している。

その一、遠い祖先以来その地の住民の髓にしみ込み骨身にしみこんで受け継いできた信仰で、これを**固有信仰**といっている。

その二、後世外部から伝来して信仰で、**伝来信仰**と名づけている。

沖縄に入ってきた伝来信仰は、沖縄の固有信仰と相反したものではなく、むしろ共通点が多かった

から、住民に受け入れられ、互いに和合・融和して浸潤し定着するようになった。仏教や石敢当や土帝君など中国から伝来した信仰が、沖縄の固有信仰と相反しなかったために住民に受け入れられた。むしろもともと沖縄にあった信仰と思われる。

こうして受け入れられた外来信仰は、住民に定着して伝承されるようになった場合は、固有信仰とともに**伝統信仰**と称せられるものになる。

沖縄の神は、一段と高い所から村人を見下ろすような、いわば村人と一線を画くような相隔てた神ではない。殿での祭りをみても、神と村人は相隔てることなく同じ場に座られ、村の子どもたちも集まっている中で村人と同じ神酒を飲まれる神である。

したがって沖縄の神は、権力をもって民衆と相対することは全然無く、ひたすら村人の平和・幸福を希っている神である。

あわせて、伝統信仰を司祭するノロと聞得大君を頂点とする女神官組織と、その機能について整理した。

第3章 聖地としての浦添グスク

浦添（うらおそい）は首里以前の王都といわれる。その浦添にあって中心となるのは浦添グスク（浦添城）である。浦添グスクは沖縄歴史上最も重要なグスクの一つであるが、往時の政治経済文化など、まだ十分に解明されていない。

「古琉球」という言葉は、伊波普猷著「古琉球」に由来する言葉です。大体のところ12、3世紀から17世紀初頭（薩摩入り）までの400年ないし500年の間とする。また、この時期は日本の中世（平安時代後期、鎌倉時代、南北朝時代、室町時代、安土桃山時代、江戸時代初期）に相当する。

この期間は、考古学でいう「グスク時代」とほぼ重なる。考古学では、12世紀から16世紀までの約400年間を「グスク時代」と呼んでいる。浦添市にはグスク時代の遺跡が15カ所確認されているという。古代浦添が最も活動した時期は、この「古琉球」期の前半ということになります。

浦添は、古くは「うらおそい」と呼ばれた。『浦添考』（伊波普猷著）によれば、「浦添という名称にどんな意味があるかと調べてみたら、浦添といふ漢字はアテ字であって、もとはうらおそいとカナで書いたということがわかった」としている。

ここでは、浦添グスク内の聖処と浦添ノロを祭司とする祭祀について、稲穂二祭の「朝願。夕願」と「與那覇門中の御ビナディ」について整理を試みた。

第2部 伊祖村の古村落的祭祀信仰と年中行事

第4章 伊祖村の古村落的祭祀信仰と年中行事

明治40年（1907年）まで存続した浦添間切14カ村（ムラ）の1村名。現在の字伊祖の前身である。オモロに「ゑぞ」の名で登場し、また、恵祖とも表記される。有名な英祖王の「英祖」も伊祖の地名をそのまま人名としたと云われている。

『琉球国高究帳』（17世紀中期）、『絵図郷村帳』（17世紀中期）に「ゑぞ村」で登場している。1740年に立地上狭隘で生活に不便なため現在の場所から東方に移動したという。しかし、病気はやり人口・戸数が減少し、耕地への往来が不便との理由により1787年、再び元の地に戻った（『球陽』）。村家（村屋とも表記）があり、間切・村制度下での行政単位であったが、明治41年施行の沖縄県及島嶼町村制により浦添間切が「浦添村」となり、伊祖村も字伊祖となって行政単位としての時代は終わった。

この伊祖ムラに伝承されている古村落的祭祀信仰・年中行事の整理を試みた。

第5章 伊祖村の聖処

1740年尚敬王時代までの伊祖は、伊祖グスク南傾斜地の石だらけの狭い場所に位置し、人家も離れてあったといわれる。おそらく人口も少なかった。こうした伊祖が、伊祖古島に移ったものの、繁栄するどころか逆に衰微したことによって、約200年前に再び伊祖、すなわち今の所に戻ってきた。

『琉球国由来記』と『琉球国旧記』（二書とも、古島への移転前の書である）には、伊祖村の拝所が、以下のように記されている。

伊祖ノ嶽、伊祖之殿、東井、上井、里主井、前之井、柴木井、立津井

ここでは、古文献に残る聖処を訪ねて、昔と今の比較検証を試みる。

なお、浦添市文化財調査報告書第4集（民俗文化財分布調査）では御嶽・井泉など14ヶ所をあげているが、東井と里主井の2井泉はその所在を確認できなかった。

第6章 伊祖の門中の祭祀信仰と年中行事

伊祖の旧来からの門中としては、安里門中、銘苅門中、ナーカ門中、タケーシ門中、親富祖門中がある。

安里門中は、元々から伊祖にあつて、他村から転入してきたという伝承はなく、村としての根元（ニームトゥ）がこの門中の宗家ニシバラであるという。伝承では英祖王の子孫となっている。

伊祖には、ノロが置かれていなくて、仲間のノロ（浦添ノロ）が伊祖の祭祀も管轄していた。戦後は伊祖の村落祭祀は安里門中のウミナイウクデ（ウミキイウクデは生まれていない）が祭祀をおこなってきたが、それも途絶えているのが現状である。村の祭祀では、伊祖自治会長が中心になっておこない、神役は書記（女性）が兼ねているという。

なお、安里門中の宗家であるニシバラはブラジルへ移民したりして、現在では、神屋（根所）は安里門中の方々で守っている。

第7章 伊祖村の祭祀行事の現在（同行記録写真集）

第1章から第6章まで、浦添と伊祖における古村落的祭祀について整理を試みた。その本章では、それら古村落的祭祀がどのように伝承され、それらが現在どのように執り行われているかについて、一部を記録写真に収めることができましたので、関係者の同意を得て、以下の4事例を本章に収録しました。

事例1 伊祖自治会と安里門中の五月ウマチー

事例2 安里門中の旧暦8月11日の御拝み（御ビナディ）

事例3 親富祖門中の清明祭

事例4（参考）仲間のウガンブトゥチ

3、まとめと反省

浦添地域（主に浦添グスクや仲間地域）の祭祀信仰と年中行事の様相を調査し、伊祖地域に存在する御嶽や殿や井泉などの聖処を確かめ、伊祖地域に伝承されるムラの祭祀行事や門中の祭祀行事に同行して見聞しました。

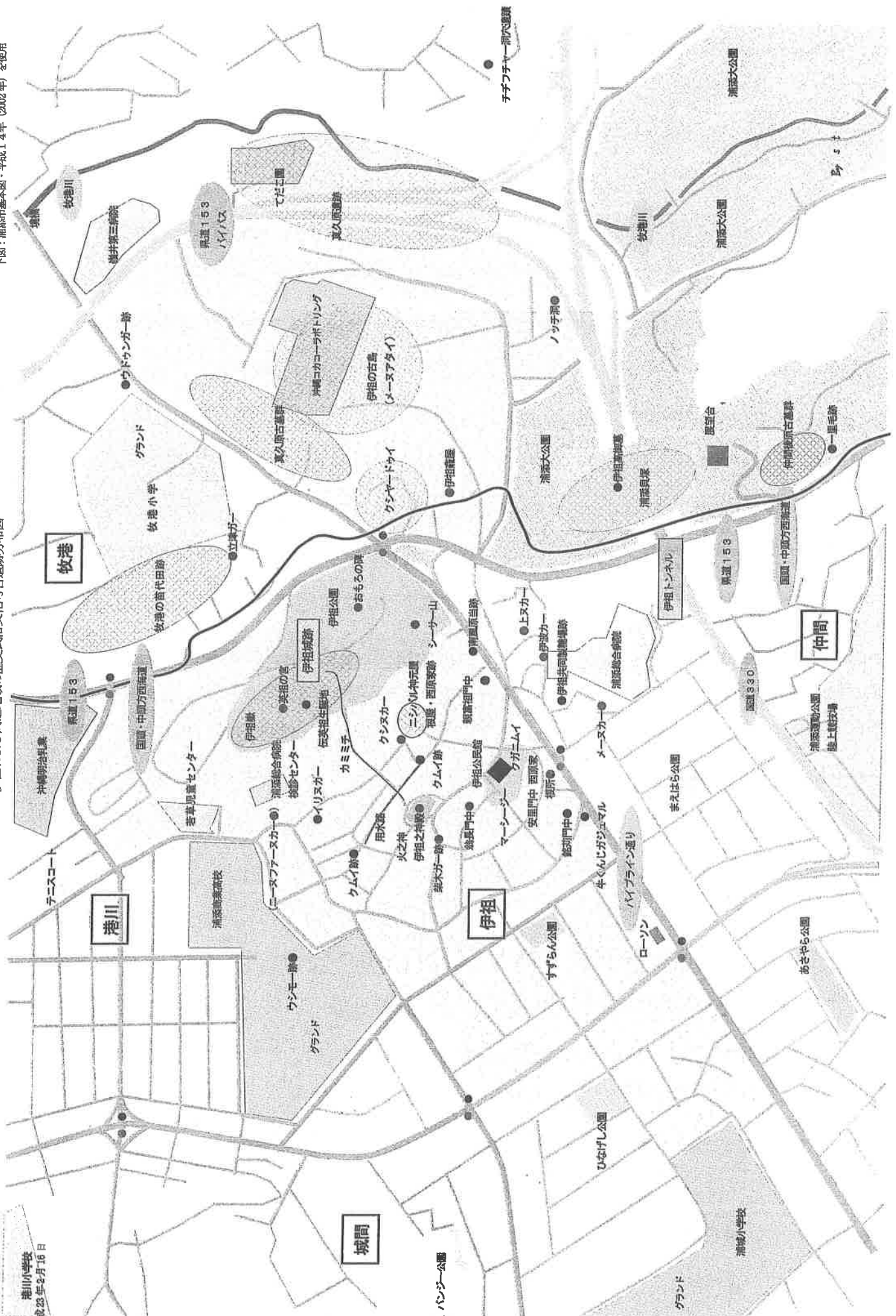
伊祖地域を中心に、浦添市史の「古村落の祭祀信仰と年中行事」から伝統信仰に、現実に日常生活の一環として執り行われている祭祀や年中行事に同行して得た写真記録等に加え、若干の専門書や研究論文を参考にしつつ要約し取りまとめました。それにしても、まとめた結果は古へ人の、その時々時代の背景や生活実態や思想にせまるにはほど遠く、単なる浦添市史の読書ノートであり、現実に日常生活の中で行われている祭祀行事の写真記録を若干加味しているに過ぎないとも云えます。

祭祀信仰の発生起源や思想、時代背景、それぞれの時代に生きる人々とどのように融和し、どのような影響を与えてきたか、現在に生きる我々はその伝承をどのように受入れ、そして次の世代にどのように継承していくか、等々。日常生活と伝統信仰（宗教）としての祭祀行事に関わる課題は多く興味は尽きることはないようです。

(了)

H23, 2, 1 記

下図：浦添市基本図・平成14年(2002年)を使用



卒業研究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏名：仲西郁代

1・テーマ

学校支援コーディネーターのシステムづくり

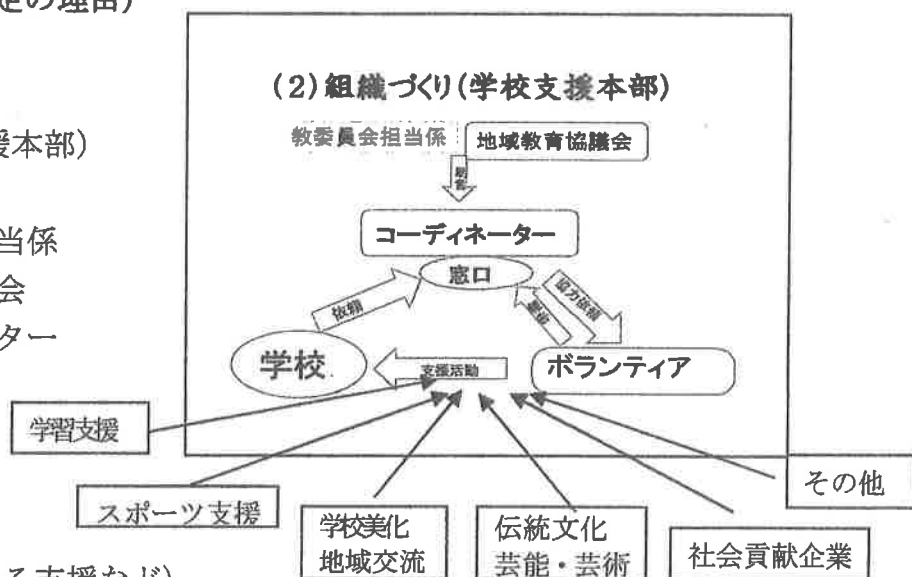
2・項立て

1はじめに（テーマの設定の理由）

2本論

- (1) 活動の場
- (2) 組織づくり（支援本部）

- ① 教育委員会担当係
- ② 地域教育協議会
- ③ コーディネーター
- ④ ボランティア



(3) 情報収集

- ① 学校（求めている支援など）
- ② 地域（大学生・地域の人材の掘り起こし）

(4) ボランティア・コーディネーターの研修と交流

(5) 実践

- ① 学習支援
（個別指導、土曜塾、不登校児童への指導、特別支援児童へのサポート）
- ② スポーツ支援（部活、水泳補助員など）
- ③ 芸術文化（芸能・芸術）
- ④ 学校美化、環境整備
- ⑤ 地域交流、自治会行事
- ⑥ 生活指導（おしゃべりコーナーなど）
- ⑦ 総合学習（畑の先生、料理の先生など）
- ⑧ 保育支援（授業参観、子育て相談など）

(6) 検証（記録、反省、改善、評価、表彰など）

3 考察

4 参考資料

5 謝辞

卒業研究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏名：仲西郁代

テーマ

「学校支援コーディネーターの システムづくり」

1 はじめに

てだこ市民大学「地域・学校支援コーディネーター養成学部」に入学を希望したのは、地域の子どもが楽しく学び、情緒豊かに育つために何かサポートしたい、子ども達から純粋なエネルギーをもらいたいという気持からである。

その手立てが分からず漠然とした希望でしたが、2年間で実践への具体的な学習が出来たと実感しているところである。

2 本論

教育基本法第3条で生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と明記されている。

実際に学習の機会はかなり広がっている。しかし、実情は自分の趣味や自己研鑽の域でとどまり、その成果を生かして社会に還元することは、意識されていない事が多い。

また、意思はあっても活用の手立てや具体的な方法も見えないという現状も見受けられる。

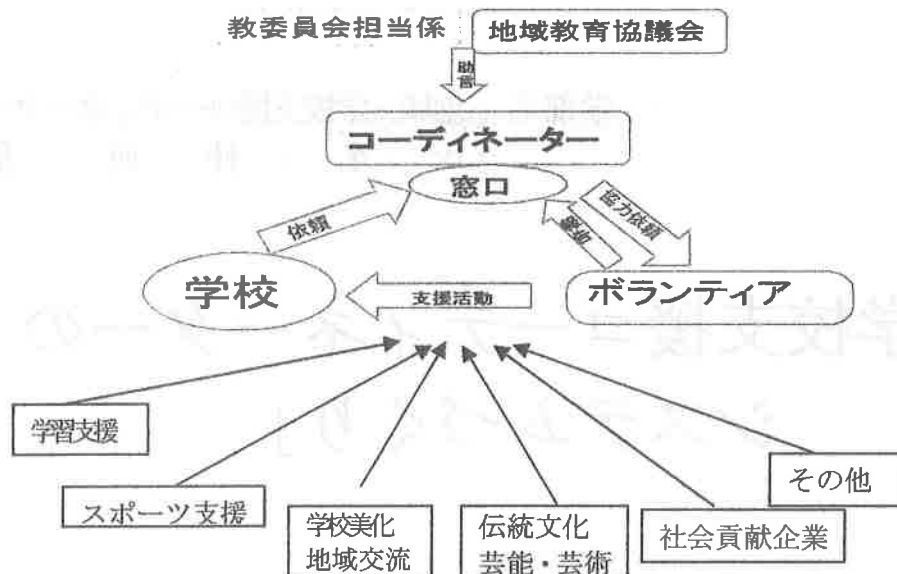
そこで、いま求められている学校支援に、生涯学習や趣味、または仕事上の経験や学習を積み重ねてきた人材、ボランティアできる人材を発掘活用して、コーディネート出来るのではないかと考えてみた。

(1) 活動の場

宮城小学校・宮城自治会館、宮城っ子児童館

(2) 組織づくり (地域支援本部)

(2) 組織づくり(学校支援本部)



① 教育委員会担当係

教育委員会の中に各小中学校の学校支援事業を支援する係をもうける
そこでは次の業務をおこなう。

ア：各学校のボランティアやコーディネーターへの支援（助言、掌握、etc）

イ：市内のコーディネーター、ボランティア全体のとりまとめ

ウ：講習会の開催

② 地域教育協議会

教職員、自治会、行政、コーディネーター代表などで構成し、学校支援の指針、指導助言、提言などで活動の支援をする組織

③ コーディネーター

コーディネーターとして3～4人のメンバーがチームで役割分担しコーディネート出来る体制をつくる。

コーディネーターの役割分担

事務局長：学校との調整・会計

委員長：会全体の運営、ボランティア交渉など

コーディネーター：定期的な事業企画運営

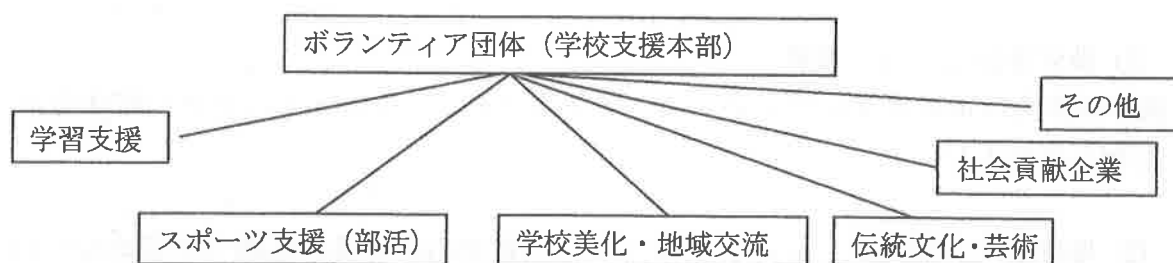
不定期事業企画運営

コーディネーターは以下の資質がのぞましい

- ア、人脈が豊富で明朗、地域をよく知っている。
- イ、学校の現状、先生の状況などよく理解し、児童生徒に好意を持つ
- ウ、相手に話させる能力、聞く能力、受け入れる能力、協調を大切に
- エ、やってもらった事に感謝する心をもつ
- オ、させてもらった事に感謝
- カ、ゆっくり相手の話を聞く
- キ、企画立案能力を備える
- ク、フットワークのきく人が望ましい
- ケ、行政に明るい

④ ボランティア

すべての人びとがボランティア出来るチャンスを作る工夫で、出来るだけ多くの人材を登録し、学校の要望、支援本部企画の事業などで協力を仰ぐ



（３） 情報収集

① 学校の要望

学校側の窓口（校長・教頭）を明確にし、支援本部の事務局長と頻繁に対話の場を持ち、お互いの要望意見を共通理解する。

「学校に必要なボランティアが何か」をコーディネーターが把握し、要望に応える努力をする。

② 地域の人材の把握と登録呼び掛け（人材バンクの作成）

社会教育と学校教育を融合させることにより、地域力、地域と学校の教育力につなげる事をめざし以下のボランティアを募集

学習支援：大学生・退職教員など

採点補助：婦人会・大学生・地域住民

環境整備：老人会・婦人会・地域住民

学校美化：婦人会・老人会・地域住民

伝統文化・芸術：舞踊・陶芸などの人材

スポーツ支援：スポーツ経験者、見守りボランティアその他
地域交流事業：自治会長・老人会など
授業参観サポート：婦人会、PTA の卒業者など
地域散策：地域住民
おもちゃで遊ぼう：老人会など
キャリア教育：企業・事業所からゲスト講師、体験学習講師として

このことは教育基本法にも明記されている

教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）

学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

（４） ボランティア・コーディネーターの研修、交流

① 教育委員会の行う研修

教育委員会は地域ボランティア、コーディネーターの資質向上のための研修会を開催してほしい。

- ② 単位ボランティア、コーディネーターは定期的に共通の課題の学習会をもつ。
また、学校側、自治会長などを交えた交流の場を持ち意見交換をおこなう
さらにボランティアの養成を図る研修を企画する。

（５） 実践

① 学習支援：個別指導（授業についていけない児童に個別に指導）

土曜塾（算数・国語・英語・パソコン）

不登校児童生徒への指導

特別支援児童へのサポート

② スポーツ支援：水泳安全みまもり・水泳指導・

サッカー、ハンドボール、野球、etc

③ 文化振興：琉舞・日舞・フラダンス・三味線、大正

陶芸・手芸・絵画・お茶・お花、etc

④ 学校美化：花壇づくり、草取り、

環境整備：剪定作業、大工、ペンキ塗り、その他

- ⑤ 地域交流：自治会主催の敬老会、盆踊り、餅つき等の行事に参加するための働きかけを積極的におこなう。

グランドゴルフ大会など老人会との交流
作品展など地域行事に参加する。

- ⑥ 生活指導：おしゃべりコーナーなどを設けて、自由に大人と子供がゆっくり会話を
楽しむ機会をつくる
- ⑦ 総合学習：畑の先生・料理の先生・平和学習、地域散策、地域紹介
- ⑧ 保育支援：授業参観などで保育の需要に対応
子育て支援

(6) 検証

定期的に反省会をもち、効果や喜び、改善点などコーディネーターは共通理解し、
後の活動で生かす努力をする。

登録ボランティアには地域協力協議会などからボランティア証を与える。

関わったボランティアにも反省、報告などの機会をつくる。

また、関わったボランティアの、記録を残すと同時に、表彰などで
評価と感謝を示す。

3 考察

具体的な実施を想定して整理してみると、難問が多いことに気づく。

まず、活動の拠点をどんな形で確保できるのか。

会議の御茶代、連絡手段の経費、活動に必要な消耗品、備品の調達をどうするか。

予算の確保はどうしても必要になる。

実際に学校がどの程度の要望を出すか。ボランティアの協力が得られるか。

活動で悩んだ時、迷った時など一息入れて立ち止まり、市民大学で学習した講師のことば
を思い起こしながらすすめたいと思いまとめた。

4つの機能：「知らせる・つなげる・支える・育てる」（講師 與儀啓子）

「出来る人が出来る時に」（講師 宮里啓子）

「ボランティアは一人の100歩より100人の1歩」、

「余力のあるところでやめる」（講師 與儀啓子）

3つのワーク：「フットワーク・チームワーク・ネットワーク」

「こまめに・笑顔で・誠意をもって」（講師 與儀啓子）

4 参考資料

- (1) 平成 22 年 2 年次用講義のすべて
- (2) 沖縄県教育委員会「地域の力で学校を支援します 学校支援地域本部事業」パンフレット
- (3) りぼねっと（全国「よのなか」科ネットワーク

5 謝辞

この卒業研究をまとめることで、2 年間の資料やメモを読み直す機会ができた。
なによりもこの 2 年間、素晴らしい講師陣との出会いで、多くの貴重な情報、知識、ボランティアとしての姿勢などを学ぶことが出来た。
向学心旺盛で意欲的な学友との出会いでネットワークも広がった。
浦添市に市民大学という学びの場を提供して下さいました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

卒業研究

地域・学校支援コーディネーター養成学部

池原 寛安

川満 裕子

1. テーマ

仲西中学校主催

仲西中学校校区PTA（仲西中・浦城小・宮城小・仲西小）

地域・家庭・学校をつなぐ学校支援

～名刺交換のイベントから～

2. 項立て

- 1 テーマ設定の理由
 - (1) 動機について
- 2 本 論
 - (1) 立案及び会議
 - (2) 実践
 - (3) 課題と成果
- 3 考 察
- 4 謝 辞

平成23年 2月19日(土)

地域・学校支援コーディネーター養成学部 卒業研究レポート

卒業研究

地域・学校支援
コーディネーター養成学部

No. 090404

池原 寛安

No. 090408

川満 裕子

プロフィール

池原 寛安

前年度: 仲西中学校PTA会長

: 仲西自治会子供育成会会長

現在: 仲西中学校PTA顧問

: 仲西小学校PTA広報部長

: 仲西自治会子供育成会副会長

: 仲西自治会 班長

: 仲西自治会放課後子供教室

: 仲西小学校周年事業記念誌委員長

: 仲西中おやじの会 会員

川満 裕子

前年度: 仲西中学校PTA副会長

: 仲西中学校PTA総務部長

現在: 心の相談員

テーマ

仲西中学校区PTA

(仲西中・浦城小・宮城小・仲西小)

地域・家庭・学校をつなぐ学校支援

～名刺交換会のイベントから～

テーマ設定の理由

1. 両者ともに仲西中学校の携わり(地域教育懇談会・CGG等)があるため、今回のイベントを企画共同研究発表にした。
2. 仲西中学校校区
(1) 仲西中・浦城小・宮城小・仲西小
※他校区(浦添中・港川中・浦西中・神森中)は校区交流が来ている。
※仲西中校区は無かった
(2) 浦城小学校を皮切りに仲西小・宮城小ともに、周年事業もあるため地域の方へ認識度を上げる必要がある。
3. 交流を通して学校は地域の中の象徴としての位置づけの再確認が出来る。
4. 仲西中学校区の4学校関係者(PTA役員、教職員、自治会長、民生委員・児童委員等)「人」を知ることが出来る。

では……

なんで？

やろうと思ったの？

きっかけは……

仲西中学校運営委員会終了後

懇親会の会場において

ある保護者からの提案から……

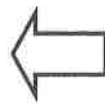
動機について

4. 仲西中学校PTA運営委員会
毎月第一水曜日ー三役会
毎月第二水曜日ー運営委員会 開催
5. 平成22年12月の運営委員会終了後の懇親会
浦城小の「パパの会」について話を聞きPTA専門部会ではない自由な保護者中心の会である。
仲西中学校でも保護者の気軽な交流会を始めては…
保護者のPTAへ参加するきっかけ作りとして検討。

某保護者のTさん



仲西中学校で
保護者が知り合える
何かイベントとか
やって頂けませんか？
たとえば・・・
名刺交換会みたいな・・・

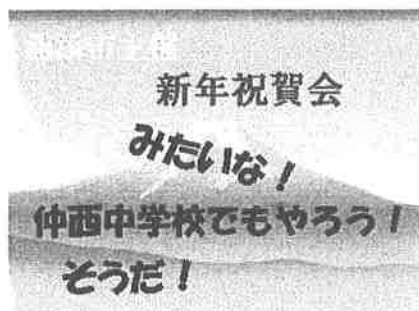


左記の方から
名刺交換会のイベント作りを
企画してみても・・・との提案を受ける



どうい
しょう・・・

そうだ！



PTA会長に相談しよう！



やるのでしたら
仲西中学校校区
でやりましょう

そのほうが
たくさんの方
が集まりますね

実行委員会設立！ 緊急会議！



PTA顧問としての池原
PTA事務としての川満

実働部隊として動いて・・・
それを
市民大学の卒業研究
ネタにしよう！

5. 思案（懇親会の場所で池原・川満と相談）

(1) 名刺交換会（どんな風に・・・）

- 場所－体育館
- 飲食有無
- 日時
- 予算
- その他



(2) 方向性

- 各市町村で行われている「新春 名刺交換会」
を仲西中学校でやってみよう・・・
- 仲西中PTA初の女性会長のN村会長とY城校長
先生へ相談する。
- 名刺交換会では無く、あくまでも親睦会とする。

6. 形が決まる

(1) 仲西中学校校区での開催

- 各小学校PTA会長へ池原と川満で確認
- 日時：1月7日(金)での予定開催を相談
- 動員人数の相談
- 場所・予算の相談
- ※N村PTA会長・川満・池原の三名で2回の
打ち合わせを行う

(2) 案内状を作成

(3) 招待者リスト作成

(4) 「美優ちゃん募金」を行う

8. 仲西中学校 三役会議

(1) 仲西中学校校区での開催

- 各小学校PTA会長への了承報告
- 日時：1月7日(金)での予定開催
- 場所：屋富祖公民館
- 予算の確認
- 役員の役割分担確認
- (2) 参加者人数報告確認（45名予定）
- (3) 期日の準備確認
- 幕開け・・・「かぎやで風」での開催
- (4) 「美優ちゃん募金」の事務局への確認

※池原・川満が実行委員長をし、このイベントの企画を
てだこ市民大学に卒業研究にしよう！とのことになる。

平成二十三年 吉日

於：屋富祖公民館

時：午後七時

9. 期日の最終決定

新春のつどい

9. 会の名称が決まる。

平成二十三年 仲西中学校校区PTA・地域
「新春のつどい」

四校のPTA役員・保護者

四校の校長先生・教職員

校区自治会長

校区市議会議員

校区民生委員・児童委員

校区子供育成会会長

10. 案内者リスト



10. 会場風景

卒業研究テーマ [コミュニティビジネス・地域振興学部]

	氏 名	研究テーマ
1	金城久子	てだこウォークを楽しむプロジェクト
2	金城幸弘	浦添市の歴史と地域芸能体感プログラム(市の観光資源と地域芸能を活用し、活気ある浦添市にしよう!)
3	今 隆春	てだこウォーク参加者早期1万人達成必達への道
4	佐久川正健	「お助け隊INおおひら」の設立について
5	仲間義彦	複合型老人介護事業
6	仲嶺まり子	ニッチ市場・心の満足・アドバイザー」
7	森口 拓	《てだこの都市・浦添～観光客が鈴なりだ～》
8	山里 功	介護保険、介護タクシーを起業するために
9	手登根仁美	地域コミュニティでの安全安心なまちづくり～小学校を拠点とした地域コミュニティで子ども達を見守るための生ごみ堆肥作りと花づくり＝宮城小学校編＝

卒業研究テーマ [健康福祉・スポーツ振興学部]

1	上原真弓	ピンピンころりを目指して～食事をおいしく食べる為に～
2	島袋 愛	いつまでも健康で、太らず病気にならない食生活を～健康長寿の推進を図り、浦添市の医療費削減、メタボ対策をめざして～
3	知名 弘	国技相撲を生涯スポーツとしての位置づけをめざして
4	豊里裕夫	浦添市の「福祉事業の取り組み」と「潤いのあるまちづくり」は？
5	濱元節子	元気ある高齢者(65歳以上)で過ごすためには介護保険認定を受けない
6	比嘉鉦由	「地域力」・「地域力向上とスポーツ」(みんなのスポーツとしてのグランド・ゴルフ)
7	福地理奈	生活習慣病を予防するためにできること
8	前原洋人	バレーボールの競技力向上と健康増進～一番安い薬は運動だ～
9	又吉武市	高齢者の健康づくりとスポーツ[中高齢者の健康づくりと地域のつながりについて]
10	又吉賜子	体重減量のもたらす影響をふまえて～国吉先生の変貌に触発され実践～
11	宮里恵美子	心肺蘇生法を学ぼう ～愛する人の命を助ける～

卒業論文〔文化振興・教養学部〕

1	栗国孝信	城間松明大綱引きについての考察
2	安里善好	時代の教訓から学べ
3	金城武信	本大学(学部)に入学について
4	古波蔵 豊	又吉村創立の伝承考察
5	末吉 忍	うちなあぐちを消さないために今できること
6	玉城 実	組踊・主として執心鐘入(玉城朝薫作)について
7	津波古重男	伊祖の古村落の祭祀信仰と習俗 ～伊祖のムラ・門中の祭祀にみる～
8	仲村盛栄	卒業の後 社会に御報恩をしなければ！
9	仲村正夫	地域資源(文化遺産、伝統・創作芸能、各種NPO等)の利活用「2つの企画提案」
10	松田長栄	・前田の棒術 ・獅子舞
11	宮里君子	1. 琉球舞踊(特に古典)に使用される歌詞と本歌の対比 2. 琉球舞踊界における家元の呼称
12	銘苅則夫	察度王の歴史的事蹟の学びから、浦添市のまちづくり及び経済発展の方策を提案

卒業研究〔地域・学校支援コーディネーター養成学部〕

1	阿波連秀敏	学校と家庭と地域を結び付けるコーディネーターを目指して ～小学校のボランティア活動～
2	新川律子	人と人をつなぐ見える学校支援のあり方 ～学校支援を実践するためには～
3	池原寛安	仲西中学校主催 仲西中学校区PTA(仲西中・浦城小・宮城小・仲西小)
4	川満裕子	地域・家庭・学校をつなぐ学校支援～名刺交換会のイベントから～
5	親盛徳三	講話活動と青少年健全育成～ある青年の絶望と這い上がりの青春
6	嘉陽律子	地域学校支援コーディネーターとしての自己実現 ～ふれあいサロン、保育園児との関わりを通して～
7	城間 剛	自治会活動と自治会員を結びつける ～自治会広報を用いた地域づくり～
8	末吉由美子	自治会を中心に子どもから大人、高齢者までどのように交流を深めていくか？
9	知念賢世	地域力の向上を目指す学校・家庭教育支援の工夫～小学校でサポーター養成講座の実施を通して～
10	當銘清光	みんなで育む楽しい学校づくり～教育相談ボランティア活動の活性化を通して～
11	仲西郁代	学校支援コーディネーターとしての計画書
12	比嘉進喜	学校支援と地域コーディネーターの役割～学校支援本部と地域コーディネーター～
13	宮里時子	学校とボランティアをつなぐには
14	宮平千夏	子どもの“夢”実現サポーター(キャリア教育支援プラン)
15	桃原美雪	学校・家庭・地域関係機関の架け橋になろう ～15年間の子育てを通して～



てだこ市民大学

「夢・まち・人」づくり



卒業生レポートに関してのお問合せ先

浦添市「てだこ市民大学」事務局（担当：新川、幸喜）

〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1

浦添市教育委員会 教育部 生涯学習振興課内

電話：098-876-1234（内線6064）

FAX：098-879-7280

メール：syogaku@city.urasoe.lg.jp